

令和 4 年度

年間学習計画表

4 年生



東京都立白鷗高等学校

4 年____組____番 氏名_____

開 拓 精 神

本校の教育を支える理念は「開拓精神」です。みずからの意志と努力をもって自己を開発していく精神、いかなる苦難にも耐えて自己の人生を切り開いていく力、社会の進展に寄与する旺盛な意欲をもつ生徒を育成することを目指しています。

I 学習計画表の活用の仕方

各教科の学習計画表には、教科ごとの目標や学習の特徴、授業の流れが提示されています。

ここには、その読み方と活用の仕方を示しました。

これを参考にして、今年1年間、どのように学習を進めていくか、自分自身の目標を立てて、計画的に取り組んでいきましょう。

その教科の3年間の学習の流れが載っています。

教科の学習目標

3年間で身につけてもらいたい、各教科の学習の目標が書かれています。

自分自身の3年後のイメージを持ち、日々の学習に取り組んでいきましょう。

3年間の科目構成と学習内容

各教科の6年間を通した科目の構成とその学習内容が書かれています。

学校では、これに基づいて、教科担当の教員間の連携を図り、組織的・体系的に指導することで、みなさんに確かな学力が身につくよう、学習活動を展開していきます。

「科目」と学習内容

各学年で学ぶ教科・科目と、その内容について書かれています。

学年が上がるに従って、どのように進んでいくのかがわかります。

3年間を見通した教科の指導計画（平成23年度入学生）

国語科					
I 国語科の学習目標					
(1) 言語能力を高めることによって、思考力を伸ばすとともに心情を豊かにする。 (2) 文章表現の読解を通して、様々な思想・人物像に触れ、自己の考えを確立し、自己の生き方について考える態度を育成する。 (3) 優れた国語表現をふと目に、自己の目で確かに対象を捉え、それを国語で適切に表現し伝達できるようにする。 (4) 国語を活用能力を身につけるとともに、日本文化の特質を理解し、現代社会を担う者としての良識を養う。 (5) 古典に描かれた世界を鑑賞することによって、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。					
国語科の3年間の科目構成と学習内容					
国語総合（必修） 現代文 2単位時間	古文 2単位時間	漢文 1単位時間	計3単位時間		
1 言語能力を高め、文章読解力の向上を目指す。教科書の文章を中心に学習する。 2 評論、小説、詩歌、思想など様々な分野の作品を学習する。 3 言語事項として、識字能力の向上を目指す。補助教材を用いて学習する。	1 古文に親しみ、読解する能力を身につける。 2 説話、日記・紀行、物語、軍記、随筆、和歌など様々な分野の代表的な作品を学習する。 3 文法事項として、歴史の記述文・品詞の活用・用言の活用・助動詞・助詞の一部・敬語法の理解までを学習する。 4 古文の語法に親しむために、百人一首の完全な暗唱を目標とする。	1 漢文に親しみ、読解する能力を身につける。 2 故事成語、唐詩、史話、儒家思想、説話などの作品を学習する。 3 訓読の基礎から始め、訓読のきまり全般を、補助教材を用いて学習する。さらに、重要な句法を学習する。			
現代文（必修） 2単位時間	古文（必修） 2単位時間	漢文 1単位時間	計3単位時間		
1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。 2 評論、小説、詩歌、思想など様々な分野の文学作品を学習する。長期休業期間を利用して、長編作品の読解・鑑賞の学習を行う。 3 言語事項として、大学入試にも対応する現代語の重要知識の習得を補助教材を用いて学習する。 4 近現代文学史の知識を、補助教材を用い、小テストなどを活用して習得する。	1 古文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。 2 説話、随筆、歴史物語、日記、物語、俳句・俳論など様々な分野の作品を学習する。 3 古典文学史の知識を、補助教材を用い、小テストなどを活用して、習得する。 4 文法事項として、用言の活用・助動詞の用法・助詞の用法・敬語法について習熟する。	1 漢文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。 2 史話（史記）唐詩（長恨歌）、古詩、小説、思想などの作品を学習する。 3 1学年次に引き続き、漢文訓読に必須の事項を補助教材を用いて学習する。			
現代文（必修） 2単位時間	古典講読（注） 3単位時間 古文 2単位時間 漢文 1単位時間	国語総合・現代文（自由選択） 文・文理解 2単位時間	古典（自由選択） 文・文理解 2単位時間	国語総合・表現編（自由選択） 文・文理解 2単位時間	国語総合・表現編（自由選択） 文・文理解 2単位時間
1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を学習する。 2 問題解決能力の向上を目指してセンター試験過去問題や演習を行う。	1 古文・漢文とも、文法・句法に留意して読解能力の向上を目指す。 2 古文・漢文とも、問題解決能力の向上を目指して、センター試験過去問題の演習を行う。 3 古文単語・漢文語彙を正確に理解するため、補助教材を用いて学習する。 (注) 文系一必修 文理解一必修選択	国公立二次・私立大入試に対応する「現代文」の問題演習を行う。	国公立二次・私立大入試に対応する「古文・漢文」の問題演習を行う。	小論文入試対策を行う。表現の基礎力が身に付いている者が、さらに表現能力の向上を目指して、過去の入試問題等を利用して、記述練習を行う。	上に同じ。

その教科の各科目の1年間の授業計画が示してあります。

学習の到達目標

その学年のうちに、どのような力を身につけてほしいか、教科の到達目標が書かれています。

年間を通して、どのようなことが目標なのか、そのためにどうはしたらよいかを考えて、授業に取り組み、学習を進めていきましょう。

考 査

定期考査(テスト)の時期と出題の範囲が書かれています。

家庭学習を含めて、計画的にテストへ向けての準備をしましょう。

学習内容・授業時間数

年間の中で、いつ、どのような学習を、どのくらいするのか書かれています。

1年間の見通しを持って、学習計画を立てていきましょう。

長期休みの宿題

夏期、冬期、春期の各長期休業中に出される宿題・課題と、その後の確認テストの有無がわかります。

普段なかなか取り組めないような、長い休みを活かした課題や、教科の実力を磨くための、総まとめをする宿題などが出されます。

また、休み明けには、その成果を確認するためのテストが行われることもあります。

評 価

成績評価について、書かれています。

どんな力や態度をみるのか、またそのための評価方法や使用する資料の主なものは何か、などが書かれています。

教科名 国語科	
科目名 国語総合・現代文	
対 象 4学年全員	
Ⅰ 学習到達目標	
1 評論を読み、その論旨や展開をたどりつつ、要旨・筆者の主張を的確に読み取ることができるようになること。	
2 小説を読み、作品の構成・登場人物の人物像・主題などを的確に読み取ることができるようになること。	
3 読者に親しみ、国語表現の豊かさを味わいつつ、その作品世界の趣きを感じ取ることができるようになること。	
4 随想を読み、その作品に示された筆者の感性・人柄・人生観などを読み取ることができるようになること。	
5 常用漢字表を中心として漢字能力を高め、言葉の世界を豊かにすることができるようになること。	
Ⅱ 授業の進め方(授業形態等)	
1 国語総合単位のうち、2単位時間で学習する。評定は、現代文・古文・漢文の3領域を総合したものとなる。	
2 課題学習を中心とする。予習確認のための小テストを毎月毎に実施する。また、定期的にノートの提出を求める。	
3 補助教材については、小テストの実施、定期考査の範囲に含めることによって学習する。	
Ⅲ 教科書・補助教材	
教科書 「精選 国語総合」東京書籍 「新版初訂カラー版新国語標準」第一学習社	
補助教材 「音と形で覚える漢字の漢習」明治書院 「新版初訂カラー版新国語標準」第一学習社	
Ⅳ 学習計画	
期 月	学 習 内 容
春休み	「教科書」による学習内容
宿 題	評論「愛するということ言葉」 P 10～17 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 1～19 音と形による分類 1回～8回
4	2学期 評論「水の東西」 P 18～24 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 20～35 音と形による分類 1回～8回
5	宿 題 小説「羅生門」 P 26～39 9回～16回
6	1学期 詩歌「紫のうへ」 P 98～99 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 36～51 音と形による分類 1回～2.4回
7	期 末 テスト 評論「理解と誤解」 P 100～102 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 52～67 音と形による分類 1回～2.4回
8	評論「なめとこ山の熊」 P 46～52
9	小説「なぜのひきかた」 P 64～79
10	詩歌「あふだ」 P 103～105
11	長作の宿 題 テスト 小説「仲義の手記から」 P 140～164 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 68～79 音と形による分類 2.5回～3.8回
12	2学期 詩歌「十五の心」 P 108～112 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 80～97 音と形による分類 3.9回～4.7回
13	宿 題 小説「花野」 P 80～95
14	2学期 テスト 評論「聴くということ」 P 53～62
15	10 2学期 評論「「精霊伝達」という神話」 P 122～127 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 98～115 音と形による分類 4.8回～5.6回
16	期 末 テスト 評論「ものと記号」 P 128～138
17	1 2 詩歌「夜経唄」 P 113～117
18	冬休み 宿 題 テスト 表現「君たちに伝えたいこと」 P 182～187 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 116～133 部首による分類 1回～9回
19	1 3学期 評論「文明のメロソロジー」 P 166～174 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 134～151 部首による分類 1.0回～1.8回
20	期 末 テスト 評論「断片化する世界」 P 175～180 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 152～185 総合問題
21	2 補助プリント
22	3 計 7.0
評 価 各学期定期考査は平常期(宿題の提出及び宿題テスト・ノート提出・小テスト)を加味した総合評価の対象となる。なお平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別の評価を含むものとする。現代文として各学期1回定期評価を行い、学年末には古文・漢文と総合して、国語総合としての学期別評定を行う。	

Ⅱ 白鷗高校の学習について

（１）四年制大学進学に対応する授業の内容である。

白鷗高校に入学してくる生徒はほぼ 100% 四年制大学への進学を希望しています。特に国公立大学への進学を希望している割合が多く、毎年多くの生徒が大学入試センター試験を受験しています。

私立大学も大学入試センターの試験を利用する大学が増加しています。生徒によっては多科目の受験の準備が必要となります。

教科・科目は大学センター試験に対応して教育課程の中に位置づけられ設定されています。各科目の授業内容は、センター入試の問題を確実に解答し、さらに二次試験や私立の難関大学の入試問題を解答できる学力を育成することを想定しています。

また、大学進学後の専門的な勉強や研究を行っていく上で、十分な力を身につけることができるように考えられています。

（２）各クラスによって学習内容が異なることのない計画的な学習である。

白鷗高校の授業は各クラスによって学習内容や進度が異なることがないように行われます。そのようなことが可能なのは、各教科・科目の授業の進展がこの年間学習計画に沿って行われているからです。各科目の学習内容はあらかじめ分かっているので、当然皆さんは 1 ヶ月先の予習や 2 ヶ月先の予習を行うことも可能です。長期休業中に次の学期の予習を全て終わらせてしまい、学期の授業が始まってからは、自分が必要と考えている専門的な高度な勉強を行うこともできます。

（３）白鷗高校の授業は家庭学習での予習を前提に成り立っている。

白鷗高校で受け継がれてきた「辞書は友達、予習は命」という言葉は家庭での学習がいかに大事であるかを端的に言い表しています。翌日の予習を全教科きちんと行くと大体 2 時間～3 時間はかかると思います。こうした予習時間を毎日確保することが、進学準備へとつながっていくのです。

予習をきちんと行くと授業で先生に教わった内容に、疑問点、質問が必ず起こってきます。学習は深化すれば深化するほど疑問点は増えるからです。そうした疑問点、質問をそのままにせず、先生に聞いて下さい。白鷗高校の先生は必ずそういった質問に対してきちんと応えてくれます。

（４）ノートの提出、小テストの実施を頻繁に実施する。

白鷗高校の授業の大きな特徴は、頻繁にノートの提出、レポートの提出が行われる、あるいは小テストが多く授業でたびたび実施されるということです。これは授業に対しての皆さんの学習の状況を正確に把握しようとするためや、学習成果の定着を確認しようとする意図があります。これらの先生方の要求する提出物や小テストの実施を受け身で考えるのではなく、自分の学力を点検し、伸ばしていくチャンスとして頑張りたいと考えています。

Ⅲ 進路指導計画について

1 進路実現に向けて

(1) 現役受験生である皆さんは学校の授業を大切に

高校生になった今、改めて伝えておきます。日常生活の中、学校で行っている授業をおろそかにして学力の伸長はあり得ません。今年の夏までに身に付けておくことは、授業の予習・復習のサイクルをきちんと行い、自分ではわからなかった点をよく整理して授業に臨む習慣をつけることです。これは、なまじ塾に行くよりも、はるかに高い学習効果があります。問題演習だけが受験準備ではないのです。学力は総合的なものであって、個々の断片的な知識の集積ではありません。また、大学生になってからの学問には、文系・理系に関わらず幅広い知識が要求されます。毎日毎時間の授業を大切に、未来へ向けての準備をしましょう。

(2) 計画的な学習を行う

おそらく皆さんは4年生の段階から、すでに何らかの形で受験勉強をスタートすることになると思います。例えば、国語の学習として古文の文法事項の整理、英語の学習として単語、熟語の暗記など、自分でいくつかの学習項目を立てて勉強を始めていることでしょう。学習が進めば進むほど勉強しなければならない範囲の広さに気がつくと思います。

高校3年生を見据えて、自分の受験勉強のゴール地点（目標大学の過去問）を1回分解いてみるのも有効です。ゴール地点の到達目標が見えると、これから学習する科目の内容をきちんと計画を立てて進めることができます。

あなたのゴールは、第1志望校の過去問題が解けるようになることです。そこに到達するまでの道は一つではありません。一つの科目をじっくりと時間をかける人もいれば、短い時間に集中的に勉強することが得意な人もいます。自分の性格や学習スタイルに合った勉強方法をとってください。計画を立てて勉強するときのコツは、計画がうまくいかなくても自分はダメだと思わないことです。計画は変更すればいいのですから、あまり厳密に方法を決めないほうが計画は予定通り進むのではないのでしょうか。停滞しない限り、あなたの進歩は続いているのです。

具体的な、地歴公民科目と理科科目の大学入学共通テスト対策としては、夏休みまでに、終了した範囲の分野別問題を繰り返し解いておくことです。教科書が終わってからまとめて問題演習を行うのではなく、終わった分野から問題演習をこまめに行いましょう。これが現役生の戦略です。シラバスを参考に、夏休みまでの学習計画を立て、実行してみましょう。

(3) 自分の受験しようとしている大学について具体的に確認をしておく

これからの一年間、学習とともに大切なのは、志望校の最終決定および受験にあたっての諸手続きの確認の二点です。

年間の進路指導スケジュールを保護者とともによく確認し、大体の受験計画が決まり次第、昨年度のデータに基づいて自分の受験しようとしている全大学の・出願期間（WEB出願は早めに）・試験日・受験科目・合格後の手続き（入学金・授業料等の支払期間・費用は「進路指導資料」最終ページ参照）について、書き出して見ましょう。

(4) 第一志望をあきらめない

現役受験生は、努力すれば本番直前（3月の後期試験）まで、とことん実力を伸ばすことができます。第一志望は絶対にあきらめずに取り組みましょう。（秋の模擬試験のD判定は現役生徒は気にしない）

国公立大学が第一志望なら、是非とも後期試験も視野に入れてください。後期試験は、見かけの倍率（出願時の倍率）と実質倍率に大きな隔たりがあります。理由、前期試験で合格している人は出願したけれど受験しないためです。前期試験とは、大学入学共通テストと個別試験の配点比率の違いや面接重視など、受験方式の違いはありますが、必ず受験計画に織り込みましょう。

(5) 学校の補習や講習を有効に活用する

高校3年生の夏休みの時期には、受験を想定した講習が毎年5月初旬に発表されます。学校で行われる講習は是非有効に活用してください。また、本校の先生方は皆さんが希望すれば、さらに別の補習を行って下さる方が大勢います。自分から積極的に先生方に相談しましょう。

大学入学共通テストが大きな関門であるためにそれにだけに目がいつている人も多いと思います。しかし、大学入学共通テストはあくまでも試験の一つでしかありません。国公立はそれぞれが独自の個別試験を行います。私立大学では、国公立大学にはない、個性的な内容の試験を課している大学もあります。これらの対応としては、進路室にたくさんある大学別・学部別の過去問が有効です。第1志望の過去問題は少なくとも過去6年分以上解きましょう。模擬試験ではわからない、1月の大学入学共通テストの先にある、大学独自の2月から始まる私立大学、2月下旬から始まる国公立大学の個別試験があることを想定し、受験準備を進めてください。

(6) 健康に注意して生活のリズムを保つ

受験勉強とは夜寝ずに勉強することだと勘違いしている人がいます。それが間違いだということを皆さんはよく分かっていると思います。睡眠は体や脳を休めると同時に、記憶したことを温存する役割があることが最近の研究で明らかになっています。昼間に眠気が襲ってくるならば、睡眠不足です。睡眠不足は生産性を低下させる要因になるので、昼間に眠気が襲ってくる人は、就寝前にだらだらスマホを見ると、睡眠の質が落ちてしまいます。眠気を我慢しながら勉強するのであれば、さっさと寝た方がよっぽど良いのです。睡眠中は直前の学習内容が頭に残るので、暗記ものは睡眠前と起床直後に同じものを覚えると暗記効果が上がります。

受験は一発勝負です。毎日コツコツ努力した上で、試験当日に努力の結果を出した人が評価されるのです。そのためにも、毎日きちんと登校し、生活のリズムを保つことが何より大切です。目標を達成した先輩たちの例を見ても明らかです。

受験シーズンの冬はカゼ・インフルエンザが流行するので外出後の手洗い・うがいの習慣必須です。

皆さんの、希望に満ちた未来へのあゆみを応援しています。

3年間を見通した進路指導の概要

	4年	5年	6年
重点目標	・学校生活への適応と基本的生活習慣の確立 ・学習の習慣化（予習・復習サイクルの徹底） ・進路についての関心の喚起と自己適性の発見	・学校行事・諸活動への積極的参加と生活習慣の見直し ・学習の習慣化と学力の向上、模擬試験の活用 ・進路志望の明確化、受験生0学期スタート	・生活習慣の見直し（学校・授業中心の生活） ・自発的な学習と学力の蓄積 ・志望校対策 ・進路志望の実現
4月	・学力テスト ・オリエンテーションでの進路講演 ・外部教育機関進路講演	・宿題テスト ・保護者会（受験結果説明会）	・校内模試 ・保護者会（受験結果説明会・推薦入試について）
5月	・進路検討会（受験結果説明会） ・入学時意識調査	・進路検討会（受験結果説明会）	・進路検討会（受験結果説明会） ・大学入試過去問利用法の集会
6月	・保護者会（進路資料配布・説明） ・外部模試（希望者・駿台）	・保護者会（進路資料配布・説明） ・学年検討会 ・外部模試（希望者・駿台） ・模試の活用法集会	・保護者会（進路資料配布・説明） ・私立難関大対策集会 ・学年検討会 ・外部模試（希望者・東大・難関大レベル模試） ・外部模試（全員・ベネッセ：マーク模試）
7月	・夏期休業中の学習計画指導 ・外部模試（全員・ベネッセ） ・模試の活用法集会	・夏期休業中の学習計画指導 ・外部模試（全員・ベネッセ） ・大学教職員による大学説明会（約30大学参加） ・保護者会（進路資料配布・説明）	・夏期休業中の学習計画指導 ・外部模試（全員・ベネッセ：記述模試） ・夏期講習 ・入試要項発表
8月	・夏期講習 ・保護者面談 ・オープンキャンパスレポート	・勉強合宿（4泊5日） ・夏期講習 ・オープンキャンパスレポート	・夏期講習 ・保護者面談 ・外部模試（希望者）
9月	・宿題テスト ・5年時科目選択指導 ・5年時科目選択予備調査 ・保護者会（進路資料配布・模試の活用）	・宿題テスト ・6年時科目選択教科別説明 ・6年時科目選択予備調査票配布	・センター試験受験説明会 ・外部模試（全員・ベネッセ駿台：マーク模試） ・外部模試（希望者・東大・難関大レベル模試） ・保護者会（進路資料配布・受験の心得） ・指定校及び一般推薦説明会
10月	・進路希望調査 ・外部模試（全員・ベネッセ） ・外部模試（希望者・駿台） ・中だるみ防止集会 ・学年検討会	・進路希望調査 ・6年科目選択予備調査 ・6年科目選択指導 ・外部模試（希望者・駿台）	・センター試験願書提出 ・外部模試（全員・ベネッセ駿台：記述模試） ・インフルエンザ対策・食事法・学年集会 ・面接対策指導開始 ・入試に向けた模試の活用法集会
11月	・5年科目選択指導 ・外部模試（全員・ベネッセ：3教科） ・学年検討会	・6年科目選択本調査 ・外部模試（全員・ベネッセ：5教科）	・外部模試（全員・ベネッセ駿台：マーク模試） ・外部模試（希望者・駿台：東大入試実践模試） ・保護者面談（受験校決定）
12月	・冬期休業中の学習計画指導	・進路講演会（卒業生の社会人＋大学教授） ・受験生0学期集会	・保護者面談（受験校決定） ・卒業研究指導 ・センター試験対策説明会
1月	・宿題テスト ・外部模試（全員・ベネッセ）	・受験生0学期スタート（第一志望宣言） ・宿題テスト ・外部模試（全員外部会場・河合塾マーク） ・外部模試（希望者・駿台：東大レベル模試） ・センター試験同日模試（希望者）	・大学入試出願指導 ・センター試験対策指導 ・センター試験 ・センター試験自己採点 ・国公立大学受験のための面談
2月	・外部模試（希望者・河合塾記述） ・保護者会（外部教育機関の利用法）	・外部模試（希望者・河合塾記述）	・国公立個別試験対策指導・私大試験対策指導 ・卒業研究完成
3月	・春期休業中の学習計画指導 ・大学・学部・学科ガイダンス	・卒業生による進路懇談会 ・春期休業中の学習計画指導	・国公立個別試験対策後期指導・私大試験対策指導 ・個別相談

* 進路指導の予定は、変更することがあります。

国語科

I 国語科の学習目標

- (1) 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。
- (2) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切にできるようにする。
- (3) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (4) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が言語文化の担い手としての自覚をもつ。
- (5) 生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

II 国語科の3年間の科目構成と学習内容

4年	現代の国語（必修）2単位		言語文化（必修）2単位		計 4単位
	1 言語能力を養い、評論等の文章読解力の向上を目指し、教科書の文章を中心に学習する。	2 実社会において理解したり表現したりする能力を言語活動の実践を通じて身に付ける。	3 言語事項として、識字能力の向上を目指し、補助教材を用いて学習する。	1 小説・韻文・古文・漢文等に親しみ、読解する能力を身につける。 2 小説領域では、近現代作家の代表的な作品を学習する。 3 韻文領域では、近現代の代表的な作品を読み、鑑賞する。 4 古文領域では、説話、日記・紀行、物語、軍記、随筆、和歌など様々な分野の代表的な作品を学習する。 5 漢文領域では、故事成語、唐詩、史話、儒家思想、説話などの作品を学習する。	
5年	論理国語（必修） 文系・理系 2単位		文学国語（必修）文系・理系2単位		古典探究(選択) 文系2単位
	1 言語能力を高め、評論等の文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。	2 実社会において理解したり表現したりする能力を言語活動の実践を通じてさらに高める。	3 言語事項として、大学入試にも対応する現代語の重要知識の習得を目ざし補助教材を用いて学習する。	4 言語事項として、識字能力の向上を目指し、補助教材を用いて学習する。	1 小説、詩歌、随想など様々な分野の文学作品を学習する。 2 近現代文学史の知識を、補助教材を用い、小テストなどを活用して、習得する。 1 古文・漢文とも、文法・句法に留意して読解能力の向上を目指す。 2 古文・漢文とも、問題解決能力の向上を目指して、センター試験過去問題の演習を行う。 3 古文単語・漢文語彙を正確に理解するため、補助教材を用いて学習する。 4 文法事項として、用言の活用・助動詞の用法・助詞の用法・敬語法について習熟する。
6年	論理国語（必修） 2単位		文学国語（必修） 2単位		国語演習（自由選択） 文系・文理系・理系2単位
	1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を学習する。	2 問題解決能力の向上を目指して、共通テスト・センター試験過去問題の演習を行う。	1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を学習する。	2 問題解決能力の向上を目指して、共通テスト・センター試験過去問題の演習を行う。	国公立二次入試に対応する「現代文」「古文」「漢文」の問題演習を行う。 私大入試に対応する「現代文」「古文」「漢文」の問題演習を行う。

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 国語科
科目名 現代の国語
対 象 4 学年全員

I 学習到達目標

- 1 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。
- 2 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切にできるようにする。
- 3 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 4 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が言語文化の担い手としての自覚をもつ。
- 5 生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 評論文、実用的な文を読むほか、タブレットを活用した言語活動を行う。
- 2 日常の言語活動を重視し、課題を提出し評価する。
- 3 補助教材については、小テストの実施、定期考査の範囲に含めることによって学習する。

III 教科書・補助教材

教科書 「現代の国語」東京書籍
補助教材「大学入試漢字TOP2000 四訂版」いいずな書店
「ビジュアルカラー国語便覧改訂版」大修館書店

IV 学習計画

期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」による学習内容	大学入試漢字TOP2000		
一 学 期	春休み宿 題		※別途指示あり	※別途指示あり		
	4	1 学期中 間 考 査	評論「木を見る、森を見る」【4時間】 P8～12 評論「技術が道徳を代行するとき」【4時間】 P13～17 評論「水の東西」【6時間】 P18～23	P14～45	1 4	
	5					
	6	1 学期期 末 考 査	評論「『身銭』を切るコミュニケーション」【4時間】 P28～32 評論「言葉は世界を切り分ける」【4時間】 P33～39 評論「解釈」【6時間】 P40～45	P48～69	1 4	
	7					
	夏休み宿 題	宿 題 テスト	※別途指示有り	P70～109		
二 学 期	9	2 学期中 間 考 査	評論「広告の形而上学」【4時間】 P48～53 評論「時間と自由の関係について」【4時間】 P54～63 評論「映像文化の変貌」【6時間】 P64～73	P110 ～133	1 4	
	10					
	10	2 学期期 末 考 査	評論「自立と市場」【4時間】 P83～87 評論「共鳴し引き出される力」【6時間】 P88～91 評論「生物の多様性とは何か」【6時間】 P96～102	P134 ～159	1 6	
	11					
	12					
	冬休み宿 題	宿 題 テスト	※別途指示有り	P160 ～193		
三 学 期	1	3 学期学 年 末 考 査	評論「学ぶことと人間の知恵」【6時間】 P112～119 評論「暇と退屈の倫理学」【4時間】 P126～133 評論「〈私〉時代のデモクラシー」【4時間】 P134～142 評論「鳥の眼と虫の眼」【6時間】 P143～149	P196 ～229	2 0	
	2					
	3					
					計 7 8	
評 価	各学期定期考査に平常点（宿題の提出及び宿題テスト・ノート提出・小テスト）を加味したものを評価の対象とする。 なお、平常点の中に「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習 に取り組む態度」の観点別の評価を含むものとする。 科目「現代の国語」、科目「言語文化」として各学期に評価を行い、学年末に科目「現代の国語」、科目「言語文化」と総合（合算）して、国語としての5段階の評定を行う。					

教科名 国語科
科目名 言語文化
対 象 4 学年全員

I 学習到達目標

- 1 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。
- 2 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。
- 3 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 4 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読者に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもつ。
- 5 言葉を通して、他者や社会に関わろうとする態度を養う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 小説、韻文、古文、漢文を読むほか、タブレットを活用した言語活動を行う。
- 2 日常の言語活動を重視し、ノートを提出する。
- 3 補助教材については、小テストの実施、定期考査の範囲に含めることによって学習する。

III 教科書・補助教材

教科書	「精選 言語文化」東京書籍
補助教材	「これからの古典文法」「古典文法練習ノート」以上尚文出版「ビジュアルカラー国語便覧改訂版」大修館書店 「わかる・読める・解ける古文単語330三訂版」いっずな出版 「新明説漢文」「基本練習ノート」尚文出版

IV 学習計画

期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	小説・韻文領域		
一 学 期	春休み宿 題		※別途指示有り		
	4 5	1 学期 中 間 考 査	随筆「言葉を届ける」 P 10～14 【4時間】 詩歌「こころの鉦」「秋の航」 P 56～59 【2時間】	古文「絵仏師良秀」P 114～115 【4時間】 古典文法～用言 プリント教材 【2時間】 漢文訓読の基本 訓読・格言・再読文字 P 230～239 【2時間】	1 4
	6 7	1 学期 期 末 考 査	小説「羅生門」 P 22～39 【4時間】 詩歌「小景異情」 「一つのメルヘン」 「I was born.」 「あいだ」 P 60～69 【2時間】	古文/徒然草「丹波に出雲といふ所あり」 方丈記「ゆく河の流れ」 P 120～121・P 128～129 【4時間】 古典文法～係り結び プリント教材 【2時間】 漢文/故事成語「推敲」 P 243 【2時間】	1 4
	夏休み宿 題	宿 題 テスト	※別途指示あり	※別途指示あり	
二 学 期	9 1 0	2 学期 中 間 考 査	随筆「耳覚めの季節」 P 15～20 【4時間】	古文/伊勢物語「芥川」 P 138～139 【4時間】 古典文法～助動詞 プリント教材 【2時間】 漢文/寓話「借虎威」「朝三暮四」 P 246～247 【4時間】	1 4
	1 0 1 1 1 2	2 学期 期 末 考 査	小説「富嶽百景」 P 72～86 【4時間】	古文/土佐日記「馬のはなむけ」 P154 【4時間】 古典文法～助動詞 プリント教材 【4時間】 漢文/史話「晏子の御」 P 264～265 【4時間】	1 6
	冬休み宿 題	宿 題 テスト	※別途指示有り	※別途指示有り	
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	小説「鏡」 P 87～97 【4時間】 桜に関する作品を読み比べる。 P 100～104 【2時間】	古文/平家物語「木曾の最期」 P194～202 【4時間】 昔の犬は何と鳴く P 220～224 【2時間】 漢文/漢詩P252～259 【4時間】 漢文/文「雑説」 P 260～261 【4時間】	2 0
評 価	各学期定期考査に平常点（宿題の提出及び宿題テスト・ノート提出・小テスト）を加味したものを評価の対象とする。 なお、平常点の中に「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習 に取り組む態度」の観点別の評価を含むものとする。 科目「現代の国語」、科目「言語文化」として各学期に評価を行い、学年末に科目「現代の国語」、科目「言語文化」と総合（合算）して、国語としての 5 段階の評定を行う。				

地歴科

I 地歴科の学習目標

- （１）我が国及び世界の形成の歴史的過程について理解と認識を深めさせる。
- （２）我が国及び世界の生活と文化の地域的特色について理解と認識を深めさせる。
- （３）地理や歴史を学習することを通して、国際社会に主体的に生きる力を養う。
- （４）民主的、平和的な国家・社会の一員として、必要な自覚と資質を養う。

II 地歴科の３年間の科目構成と学習内容

4年	地理総合 2単位（必修）		歴史総合 2単位（必修）			
	1 世界の自然環境の学習を通じて、環境と人間との関係性について考察する力を身につける。 2 世界で展開される人文・社会現象の学習を通じて、人類が築いてきた多様な文化と社会を考察する力を身につける。 3 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。		1 18～19世紀、ヨーロッパや日本を中心に、どのように近代化したのか理解し、その特徴や差異を理解する。 2 二度の世界大戦は世界にどのような影響を及ぼしたのか、様々な視点から捉え理解する。 3 戦後の国際体制ではどのような課題があるか発見し、様々な視点から解決策を考える。 4 様々な資料をもとに、歴史を深く考察し、意見を共有しながら学びを深める。			
5年	地理探究 2単位	世界史探究 2単位	日本史探究 2単位			※5年では、3つの科目から2つもしくは1つを選択
	1 地理的な諸事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の要因を捉えることにより、現代世界の諸事象の地理的認識と系統地理的な考察の手法を身につける。 2 諸地域の地域性と諸課題を捉える学習を通して現代世界の諸地域を地誌的に考察する方法を身につける。 3 持続可能な国土像を探究する。	1 世界の一体化を、科学技術や工業力の発展とともに捉え、各地域の相互関係を認識する。 2 ヨーロッパの市民革命やナショナリズムの展開とともに、植民地化されていくアジア・アフリカ諸地域の民族運動や今日の課題を考えさせる。 3 常に現代の世界情勢との関連性を視野に、社会科目全般の理解のための基礎的知識を身につけさせる。	1 開国(ペリーの来航)から現代までを学習対象とする。 2 国際的な視野に立ち、多角的な視点をもって近現代史を学ぶ。 3 基礎的な知識を獲得すると共に歴史的思考力を培うことを目標とする。 4 流れとして日本史を把握できる力を養う。 5 特定のテーマを選び、重点的に学ぶ、主題学習を導入する。			
6年	地理探究 6単位(必選)	地理探究 2単位(自選)	世界史探究 6単位(必選)	世界史探究 2単位(自選)	日本史探究 6単位(必選)	日本史探究 2単位(自選)
	1 地理的な諸事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の要因を捉えることにより、現代世界の諸事象の地理的認識と系統地理的な考察の手法を身につける。 2 諸地域の地域性と諸課題を捉える学習を通して現代世界の諸地域を地誌的に考察する方法を身につける。 3 持続可能な国土像を探究する。	1 地理的な諸事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の要因を捉えることにより、現代世界の諸事象の地理的認識と系統地理的な考察の手法を身につける。 2 諸地域の地域性と諸課題を捉える学習を通して現代世界の諸地域を地誌的に考察する方法を身につける。 3 持続可能な国土像を探究する。	1 古代～中世史における、世界諸地域の国家の成立と、諸文明、またその相互の関係を学ぶ。 2 ヨーロッパ史と中国史を基本としながら、内陸アジア史や海域史の視点から、人とモノの交流だけでなく、技術や宗教・生活等を含めて考えさせる。 3 徹底的に基礎力をつける。	1 地歴科2科目目の選択者に対して、問題演習を通じて基礎的な知識を獲得すると共に歴史的思考力を培うことを目標とする。 2 共通テスト、大学入試に対応できる力を身につける。	1 原始・古代から近世までを学習対象とする。 2 多角的な視点から学習し、歴史の基礎的な知識を得るとともに、歴史的思考力を培う。 3 テーマや流れとして日本史を把握する。 4 問題演習などによって、学習内容をまとめていく。 5 大学入試に対応できる力を身につける。	1 地歴科2科目目の選択者に対して、問題演習を通じて基礎的な知識を獲得すると共に歴史的思考力を培うことを目標とする。 2 共通テスト、大学入試に対応できる力を身につける。

※5年では、3つの科目から2つもしくは1つを選択

※ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 地歴科
科目名 地理総合（必修2単位）
対象 4学年全員

I 学習到達目標

- 1 世界の自然環境の学習を通じて、環境と人間との関係性について考察する力を身につける。
- 2 世界で展開される人文・社会現象の学習を通じて、人類が築いてきた多様な文化と社会を考察する力を身につける。
- 3 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に着ける。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 教科書に準じたプリントを中心に、プロジェクト資料や板書を併用しながら授業をすすめていく。
- 2 必要に応じて発問や課題、小テスト、ノート提出などを求め、生徒の理解の定着を確認しつつ、授業を進めていく。
- 3 「考えること」を重視しつつ、確実な基礎学力を身につけ、知的欲求を啓発できるよう双方向対話型授業を展開する。

III 教科書・補助教材

教科書 「わたしたちの地理総合」 二宮書店 「新詳高等地図」 帝国書院
補助教材 「地理統計Plus」 帝国書院 新詳地理資料「COMPLETE 2022」 帝国書院

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題					
	4 5	1 学期 中 間 考 査	第1章 地図とGISの活用 P10～38	新詳地理資料「COMPLETE」 P4～11 「地理統計Plus」 帝国書院	12	
	6 7	1 学期 期 末 考 査	第2章 生活文化の多様性と国際理解 1節 自然環境と生活文化 P40～67 2節 産業の発展と生活文化 P68～87	新詳地理資料「COMPLETE」 P12～69 P86～157 「地理統計Plus」 帝国書院	18	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト	1 学期の復習 地形図の読み取り			
二 学 期	9 10	2 学期 中 間 考 査	第2章 生活文化の多様性と国際理解 3節 言語・宗教と生活文化 P88～109 4節 グローバル化の進展と生活文化 P110～124	新詳地理資料「COMPLETE」 P214～221 P184～195 「地理統計Plus」 帝国書院	14	
	10 11	2 学期 期 末 考 査	第3章 地球的課題と国際協力 P128～166	新詳地理資料「COMPLETE」 P76～85 P130～145 P196～201 「地理統計Plus」 帝国書院	18	
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト				
三 学 期	1 2	3 学期 学 年 末 考 査	第4章 生活圏の諸課題 P170～240	新詳地理資料「COMPLETE」 P70～75 「地理統計Plus」 帝国書院	16	
					計 78 (2単位)	
評 価	・各学期期末考查の得点とノート、プリント、その他課題を評価の対象とする。 ・評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価（ABC）と5段階の評定によって行う。 ・評価物はいずれも上記の観点別評価で行う。					

教科名 地歴科
科目名 歴史総合（必修2単位）
対象 4学年全員

I 学習到達目標

- 1 18～19世紀、ヨーロッパや日本を中心に、どのように近代化したのか理解し、その特徴や差異を理解する。
- 2 二度の世界大戦は世界にどのような影響を及ぼしたのか、様々な視点から捉え理解する。
- 3 戦後の国際体制ではどのような課題があるか発見し、様々な視点から解決策を考える。
- 4 様々な資料をもとに、歴史を深く考察し、意見を共有しながら学びを深める。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 授業プリントを用いて知識を整理し、そこから自分の考えを書き、意見交換を行う。
- 2 必要に応じて発問や課題、小テスト、ノート提出などを求め、生徒の理解の定着を確認しつつ、授業を進めていく。
- 3 「考えること」を重視しつつ、確実な基礎学力を身につけ、知的欲求を啓発できるよう双方向対話型授業を展開する。

III 教科書・補助教材

教科書	「歴史総合 近代から現代へ」山川出版社
補助教材	「明解歴史総合図説シンフォニア（書籍＋クラウド配信）」帝国書院 「歴史総合近代から現代へノート」山川出版社

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4	1学期 中 間 考 査	第Ⅰ部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界 p 24～30 第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 p 36～59	『歴史総合ノート』 p 4～43	12	
	5					
	6					
	7	1学期 期 末 考 査	第3章 明治維新と日本の立憲体制 p 66～74 第4章 帝国主義の展開とアジア p 78～97	『歴史総合ノート』 p 44～75	18	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト				
二 学 期	9	2学期 中 間 考 査	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 第6章 経済危機と第二次世界大戦	『歴史総合ノート』 p 76～111	14	
	10					
	10 11	2学期 期 末 考 査	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	『歴史総合ノート』 p 112～125	18	
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト				
三 学 期	1	3学期 学年末 考 査	第Ⅲ部 グローバル化と私たち 第8章 冷戦と世界経済 第9章 グローバル化する世界 第10章 現代の課題	『歴史総合ノート』 p 126～171	16	
	2					
					計 78 (2単位)	
評 価			・各学期期末考査の得点とノート、プリント、その他課題を評価の対象とする。 ・評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価（ABC）と5段階の評定によって行う。 ・評価物はいずれも上記の観点別評価で行う。			

数学科

I 数学科の学習目標

- (1) 数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深める。
- (2) 事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。
- (3) 数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

II 数学科の3年間の科目構成と学習内容

4年	数Ⅰ（必修） 3単位		数A（必修） 2単位			
	1	数を実数まで拡張する意義や、集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。式を多面的にみたり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	1	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
5年	2	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	2	整数の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
	3	二次関数とそのグラフについて理解し、二次関数を用いて数量関係や変化を表現することの有用性を認識すると共に、それらを事象の考察に活用できるようにする。	3	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
6年	4	統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。				
	数Ⅱ（必修） 4単位		数B（必修） 2単位			
7年	1	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	1	簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
	2	座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	2	確率変数とその分布統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。		
8年	3	指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	3	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。		
	4	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。				
9年	5	微分積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。				
10年	文系・文理系 数 α （自由選択） 2単位	文系・文理系 数 β （自由選択） 2単位	文系・文理系 数 γ （自由選択） 4単位	文理系 数Ⅱ（必修） 4単位	理系 数ⅢC・演習（必修） 7単位（数ⅢC4＋演習3）	
	1	センター試験ⅠAでの高得点を目指し、処理スピードを高め、解答力を養う。	1	センター試験ⅠAⅡBCでの高得点を目指し、処理スピードを高め、解答力を養う。	1	平面上の曲線が様々な式で表されること及び複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
11年	2	演習を通して、既習分野における基礎基本を確立し、数学ⅠAの体系的理解を目指す。	2	重要例題から発展問題までの演習を通して、高校数学の体系的理解を目指す。	2	国公立大学2次試験に対応した、高い記述力と解答力を身に付ける。
	3	大学入試問題と多様な解法に触れることで、分野横断的に考察する力と解決する力を養う。	3	大学入試問題と多様な解法に触れることで、分野横断的に考察する力と解決する力を養う。	3	大学入試問題と多様な解法に触れることで、分野横断的に考察する力と解決する力を養う。
12年			4	高い基礎力に基づいた幅広い応用力と発想力を養い、論理的思考力の更なる向上を目指す。	4	微分法の理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。
						4

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 数学科
科目名 数学Ⅰ
対 象 4 学年全員

I 学習到達目標

- 1 数を実数まで拡張することの意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。
また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1 次不等式を事象の考察に活用できるようにする。
- 2 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、
それらを事象の考察活用できるようにする。また、三角比の発展として三角関数及び図形と方程式の内容を扱うことにする。
- 3 2 次関数とそのグラフについて理解し、2 次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、
それらの事象の考察に活用できるようにする。
- 4 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 予習、復習を前提とした授業を実施する。
- 2 授業は教科書を中心に扱う。問題演習などでは、問題を考察し、生徒自身が解法を発表することでプレゼン能力を高める。
- 3 確認テストを実施し、定着をはかる。プリント、ノート、課題提出による取組状況確認を定期的に行う。

III 教科書・補助教材

教科書 「数学Ⅰ」数研出版
副教材 「改訂版 4STEP 数学Ⅰ＋A」数研出版 「増補改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅰ＋A」数研出版
「データの分析ワークノート」東京書籍 「改訂版 項目別学習ノート 式と証明、複素数と方程式」数研出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト	中学校の復習	スタディーチャージ	1	
	4 5	1 学期 中 間 考 査	2 章 集合と論証 1. 集合 P52～57 2. 命題と条件 P58～63 3. 命題と証明 P64～71 1 章 数と式 1 節 式の計算 P8～24 2 節 実数 P25～37 3 節 1 次不等式 P38～49	「改訂版 4STEP 数学Ⅰ＋A」 2 章 P25～P32 1 章 P6～P24	9	
	6 7	1 学期 期 末 考 査	3 章 2 次関数 1 節 関数とグラフ P74～P104 2 節 2 次方程式と 2 次不等式 P105～P131	「改訂版 4STEP 数学Ⅰ＋A」 3 章 P33～P60	27	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト	1 学期の復習・2 学期の予習	・「チャート式基礎からの数学Ⅰ・A」 ・「データの分析ワークノート」	1	
二 学 期	9 10	2 学期 中 間 考 査	4 章 図形と計量 1 節 三角比 P134～P151 2 節 三角形への応用 4. 5. P152～P158	「改訂版 4STEP 数学Ⅰ＋A」 4 章 P59～P69	24	
	10 11 12	2 学期 期 末 考 査	2 節 三角形への応用 6. ～8. P159～P173 5 章 データの分析 1 データの整理～6 仮説検定の考え方 P176～P209	「改訂版 4STEP 数学Ⅰ＋A」 4 章 P70～P81 5 章 P79～P89	24	
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト	2 学期の復習・3 学期の予習	・「チャート式基礎からの数学Ⅰ・A」 ・「データの分析ワークノート」	1	
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	式と証明 式と計算 等式と不等式の証明 複素数と方程式	「項目別ノート 式と証明、複素数と方程式」 「4STEP 数学Ⅱ 完成ノート 式と証明、複素数と方程式」	30	
					計 117 (3 単位)	
評 価	1 評価評定について ・各学期に評価する。 ・「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習 に取り組む態度」の観点別の評価を含むものとする。 2 評価評定の対象 ・定期考査（各100点） ・宿題テスト、確認テスト ・平常点（プリント提出状況、学期中の宿題、長期休業中の宿題、授業態度等）					

教科名 数学科
科目名 数学 A
対 象 4 学年全員

I 学習到達目標

- 1 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
- 2 整数についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。
- 3 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 予習、復習を前提とした授業を実施する。
- 2 授業は教科書を中心に扱う。問題演習などでは、問題を考察し、生徒自身が解法を発表することでプレゼン能力を高める。
- 3 確認テストを実施し、定着をはかる。プリント、ノート、課題提出による取組状況確認を定期的に行う。

III 教科書・補助教材

教科書 「数学A」数研出版
副教材 「新課程 4STEP 数学Ⅰ＋A」数研出版 「増補改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅰ＋A」数研出版
「図形の性質ワークノート」 東京書籍 「整数の性質ワークノート」 東京書籍

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト		スタディーチャージ	1	
	4 5	1 学期 中 間 考 査	準備 集合 P6～P13 第 1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数 P14～P41	「新課程 4STEP 数学Ⅰ＋A」 第 1 章 P100～P118	5	
	6 7	1 学期 期 末 考 査	第 2 節 確率 P42～P81	「新課程 4STEP 数学Ⅰ＋A」 1 章 P119～P135	18	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト	1 学期の復習・2 学期の予習	・「チャート式基礎からの数学Ⅰ・A」 ・「図形の性質ワークノート」	1	
二 学 期	9 1 0	2 学期 中 間 考 査	第 3 章 数学と人間の活動 1 約数と倍数 2 素数と素因数分解 3 最大公約数、最小公倍数 4 整数の割り算 5 ユークリッドの互除法 6 1 次不定方程式 P132～P157	「新課程 4STEP 数学Ⅰ＋A」 第 3 章 P163～P178	18	
	1 0 1 1 1 2	2 学期 期 末 考 査	7 記数法 補足 合同式 補足 2 次の不定方程式 P158～P179	「新課程 4STEP 数学Ⅰ＋A」 第 3 章 P179～P181 P184～P191	18	
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト	2 学期の復習・3 学期の予習	・「チャート式基礎からの数学Ⅰ・A」 ・「図形の性質ワークノート」 ・「整数の性質ワークノート」	1	
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	第 2 章 図形の性質 第 1 節 平面図形 P 82～P117 第 2 節 空間図形 P118～P131 研究 2 点間の距離 P166～P167	改訂版 4STEP 数学Ⅰ＋A」 第 2 章 P136～P162	16	
					計 78 (2 単位)	
評 価	1 評価評定について ・各学期に評価する。 ・「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習 に取り組む態度」の観点別の評価を含むものとする。 2 評価評定の対象 ・定期考査（各100点） ・宿題テスト、確認テスト ・平常点（プリント提出状況、学期中の宿題、長期休業中の宿題、授業態度等）					

3年間を見通した教科の指導計画（令和4年度入学生）

理科

I 理科の学習目標

- （1）目的意識をもって実験・観察などを行い、探究心を高め、自然を主体的に学習する態度を育成する。
- （2）実験・観察を通して探究活動を行い、科学的に自然を調べる方法を身につけ、問題解決能力を育成する。
- （3）自然の事物・現象に見られる原理・法則等を理解し、自然について分析的、総合的に考察する能力を養い、科学的な自然観を育成する。
- （4）科学や自然と人間とのかかわりの視点に立ち、自然を総合的にみる見方や、科学的なものの見方を育成する。

II 理科の3年間の科目構成と学習内容

4 年	物理基礎 必修 2単位	生物基礎 必修 2単位		
	中学までに学んでいる自然の見方、探求の仕方を再確認し、その方法を用いて、身近な生活にみられる運動とエネルギー、熱、波、電気について学習する。	1「生物と遺伝子」では、細胞の構造と機能の概要や、DNAの構造と遺伝子の発現の仕組みを理解する。 2「生物の体内環境の維持」では、恒常性の仕組みを理解し、体内環境の維持と免疫・健康との関係について学ぶ。 3「生物の多様性と生態系」では、植生の多様性と生態系の成り立ちを理解しその保全の重要性を学ぶ。		
5 年	物理 理系必修 4単位	生物 理系必修 4単位	化学基礎 必修選択 3単位	地学基礎 必修選択 3単位
	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育むと共に、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につける。 ここでは、物理基礎の応用として、平面内の運動、剛体、運動量、円運動・単振動・惑星の運動、熱と気体、電磁気について学ぶ。	生物に関する事物・現象に対する探究心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、生物学的に探究する態度を育てる。生物の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、生命現象を科学的にとらえる自然観を育成する。 具体的には「生命現象と物質」、「遺伝子のはたらき」、「生殖と発生」、「生物の環境応答」、「生態と環境」の分野について学習する。	科学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、科学的に探求する態度を育てる。化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 具体的には、「物質の状態」および「物質の変化」を学習する。	1「固体地球とその変動」 プレーートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成、火山活動と地震の発生のしくみについて理解する。 2「移り変わる地球」 地層が形成される仕組みと地質構造、古生物の変遷と地球環境の変化について理解する。 3「大気・海洋と気象」 大気の大循環と海水の運動及びそれらによる地球規模の熱の輸送について理解し、日本で見られる季節の気象について学ぶ。 4「宇宙の構成」 実験・観察を通して宇宙と惑星としての地球の特徴を理解する。 5「自然との共生」 地球環境の変化を科学的に考察する。
6 年	必修選択 物理演習 理系2単位 5年次の学習内容に引き続き、物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育むと共に、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につける。ここでは、電磁気、原子について学ぶ。	必修選択 生物 理系で5年次に生物を履修しなかった人向け 4単位 内容は5年次の生物と同様。 必修選択 生物演習 2単位 5年次の学習内容に引き続き、「生物の進化と系統」の分野について学習する。全体の復習も行い、国公立を問わず個別試験に対応すべく、副教材などを活用した問題演習を行う。	化学 理系・文理系必選 6単位 1 化学平衡状態の存在および法則性、種々の条件変化によるその移動について理解する。 2 無機物質について周期表を基に、金属・非金属ごとに単体や化合物の性質を広く学ぶ。 3 生体を構成する有機化合物にはどのようなものがあるか、また組成や構造がその性質とどのように関連しているかを理解する。 4 合成高分子化合物について、その組成や構造と性質の関連性を理解し、化学的な理解を深める。 『化学』全範囲終了後は、センター試験・国公立二次試験等に対応できるよう、問題演習を行う。 自由選択 化学 理系1単位 私大・国公立試験の入試問題演習等の練習・解説を通して、理工系大学進学に対応した力を養成する。 自選 化学基礎 文理系・文系 1単位 センター試験『化学基礎』に対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。	地学 理系・文理系 必選6単位 (1)地球の概観 地球の形状や内部構造を観察、実験などを通して探究し、地球の概観を理解する。 (2)地球の活動と歴史 地球に見られる様々な事物・現象を観察、実験などを通して探究し、地球の活動と歴史を理解する。 (3)地球の大気と海洋 地球の大気と海洋の事物・現象を観察、実験などを通して探究し、大気と海洋の構造や運動を理解する。 (4)宇宙の構造 宇宙に関する事物・現象を観察、実験などを通して探究し、宇宙の構造について理解する。 ※理系センター試験と二次試験向けの演習も行う。 自選 地学基礎 文理系・文系 1単位 5年次の学習で不十分なところを補充するとともに、各単元の重要事項を整理し、文系センター試験をターゲットとした問題演習を行う。

※ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 理 科
科目名 物理基礎
対 象 4 学年全員

I 学習到達目標

- 1．基礎的事項を確実に身につけ、物理学の考えに基づいて現象の説明が出来るようになること。
- 2．計算問題についても物理的な意味をきちんと理解しながら、正しく速く解答を出せるようにすること。
- 3．日常生活上における様々な応用に関しても、自ら考え、学んでいこうとする姿勢を持てるようにすること。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1．物理現象について自分なりに考えることから始める。
- 2．問題演習などによる毎時間の復習が必要である。
- 3．第5・第6学年に設けられた「物理」の学習につながるよう、その学習内容を吟味・検討し、授業では発展的内容も含めて行う。

III 教科書・補助教材

教科書	「物理基礎」 数研出版
副教材	「セミナー物理基礎」 第一学習社

IV 学習計画

学	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4	1 学期 中 間 考 査	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 教科書P12～P37 「速度」「加速度」 ・等速直線運動 ・速度の合成、相対速度 ・等加速度直線運動	セミナー物理基礎 P4～P13	1 2	
	5					
二 学 期	6	1 学期 期 末 考 査	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 教科書P38～P53 「落体の運動」 ・自由落下、鉛直投射、水平投射、斜方投射	セミナー物理基礎 P14～P37	1 6	
	7		第2章 運動の法則 教科書P54～P69 「力とそのはたらき」「力のつりあい」 ・力の合成と分解 ・作用と反作用			
	9	2 学期 中 間 考 査	第1編 運動とエネルギー 第2章 運動の法則 教科書P70～P95 「運動の法則」 ・運動の3法則、運動方程式 「摩擦力」「液体や気体から受ける力」	セミナー物理基礎 P38～P61	1 5	
	1 0		第3章 仕事と力学的エネルギー 「仕事」 教科書P96～P101 ・仕事と仕事率			
三 学 期	1 0	2 学期 期 末 考 査	第1編 運動とエネルギー 第3章 仕事と力学的エネルギー 「運動エネルギー」 教科書P102～P121 ・運動エネルギーと仕事の関係 「位置エネルギー」「力学的エネルギーの保存」	セミナー物理基礎 P62～P83	1 5	
	1 1		第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 教科書P122～P134 「熱と熱量」 ・熱と仕事、熱機関			
	1 2					
	1	3 学期 学 年 末 考 査	第3編 波 第1章 波の性質 教科書P144～P175 「波の表し方」「波の伝わり方」	セミナー物理基礎 P86～P119	2 0	
	2		第2章 音 教科書P174～P193 「音の性質」「振動と共振・共鳴」			
	3		第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 教科書P194～P217 「電気の性質」「電流と電気抵抗」 「電気とエネルギー」 第2章 交流と電磁波 教科書P218～P229 「交流と直流」「電磁波」			
					計 7 8 (2 単位)	
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査（各学期、年間5回）、 ②提出物（宿題・ノート、実験・観察プリント） ③学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）					

教科名 理科

科目名 生物基礎

対 象 4 学年全員（必修 2 単位）

I 学習到達目標

- 1．多様な生物が共通にもつ細胞の構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身につける。
- 2．DNAの構造と機能の概要を理解し、遺伝子発現の仕組みを理解する。
- 3．生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について学ぶ。
- 4．植生の多様性と生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性を学ぶ。
- 5．大学入学共通テストで問われる知識と考察力を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1．教室における講義形式を基本とし、必要に応じて観察、実験、実習を行う。
- 2．教科書の項目毎に問題演習を行い、資料集を通して理解を深める。

III 教科書・補助教材

生物基礎	（第一学習社）
スクエア最新図説生物	（第一学習社）
セミナー 生物基礎	（第一学習社）

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4	1 学期	1 編 生物の特徴 1 章 生物の多様性と共通性 P12-25 実験：マイクロメーターの使い方 P10 生物の種類や分類について 実験：原核生物と真核生物の観察 P20 細胞の構造やはたらきについて	セミナー 基本問題 1～8	7	
	5	中 間 考 査	2 章 生命活動とエネルギー P26-29 ATPの構造や仕組み、酵素の性質とATPについて	基本問題9～11	6	
	6		2 章 生命活動とエネルギー P30-50 光合成と呼吸について	セミナー 基本問題12～19、	5	
			2 編 遺伝子とそのはたらき 1 章 生物と遺伝子 P52-63 遺伝の法則、DNAの構造と染色体やゲノムにつ	基本問題22～27	5	
	7	期 末 考 査	2 章 遺伝情報の分配 P64-71 体細胞分裂とDNAの半保存的複製について 実験：体細胞分裂の観察 P66-67	基本問題28～36	5	
二 学 期	9	2 学期	3 章 遺伝情報とタンパク質の合成 遺伝子の発現の仕組み（セントラルドグマ） 、タンパク質の合成について P72-94	セミナー 基本問題37～41	8	
	1 0	中 間 考 査	3 編 生物の体内環境の維持 1 章 体内環境 P96-115 血液の役割とその循環、肝臓や腎臓のはたらき について	基本問題45～54、58～65	7	
	1 0		2 章 体内環境を維持するしくみ P116-133 神経系、内分泌腺、ホルモンの種類とはたら き、調節のしくみについて	セミナー 基本問題66～75	7	
	1 1		3 章 免疫 P134-170 免疫に関わる細胞、自然免疫、獲得免疫、免 疫と医療について	基本問題80～91	8	
三 学 期	1	3 学期	4 編 生物の多様性と生態系	セミナー	7	
	2	学年末 考 査	1 章 植生の多様性と遷移 P172-183 身の回りの植生について	基本問題94～105		
	3		2 章 バイオームとその分布 P184-197 世界の気候に応じたバイオームについて 3 章 生態系とその保全 P198-234 エネルギーの収支や物質の循環、外来生物に ついて	基本問題106～111 基本問題116～138	7 6	
					計 7 8 (2 単位)	
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ① 定期考査（各学期、年間5回）、② 提出物（確認テスト、宿題ノート、課題プリント）、 ③ 学習の様子（授業参加態度等）					

保健体育科

I 保健体育科の学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的・計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身につけるとともに、健康の保持増進のための実践力を育成し体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を学ぶ。

- (1) 体育
- ①運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。
- ②自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正・協力・責任・参画などに対する意欲を高める。
- ③健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身につける。
- (2) 保健
- ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。
- ②生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につける。

II 保健体育科の3年間の科目構成と学習内容

学年	体 育 2単位（必修）	保 健 1単位（必修）
4年	1 体づくり運動 体ほぐし、体力を高める運動、白鷗体操、体力テスト 2 陸上競技 短距離走、跳躍、長距離走 3 水泳 基本泳法の習得、20分間泳 等 4 球技 男女共習で2種目ずつ実施 5 選択種目（2学期より） 武道（柔道・球技）、ダンスより選択 6 体育理論 スポーツの歴史・文化的特性や現代のスポーツの特徴	1 現代社会と健康 我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること、及び環境を改善していくことの重要性について学ぶ。 ①健康の考え方 ②健康の保持増進と疾病の予防 ③精神の健康 ④交通安全 ⑤応急手当
5年	1 体づくり運動 体ほぐし、体力を高める運動、白鷗体操、体力テスト 2 陸上競技 短距離走、跳躍、投擲種目、長距離走 3 水泳 基本泳法の習得、20分間泳、着衣泳 等 4 球技 男女共習で2種目ずつ実施 5 選択球技 球技3種目より1種目を選択して実施 6 体育理論 運動やスポーツの効果的な学習の仕方	2 生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること、及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することの重要性について学ぶ。 ①思春期の性意識と性行動の選択 ②結婚・妊娠・出産と加齢 ③保健・医療制度、地域の保健・医療機関、保健活動や対策 3 社会生活と健康 環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康に関わる活動や対策の重要性について学ぶ。 ①環境と健康 ②環境と食品の健康 ③労働と健康
6年	1 体づくり運動 体ほぐし、体力を高める運動、白鷗体操、体力テスト 2 陸上競技 短距離走 3 水泳 アクアゲーム、20分間泳 等 4 球技 男女共習で実施 5 選択球技 球技3種目より1種目を選択して実施 6 体育理論 豊かなスポーツライフの設計の仕方	

対 象 4 学年全員

運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに、技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力について学び、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身につける。

2単位のうち1単位は、2学期から武道（柔道・球技）とダンスの2種目の中から1種目を選択し男女共習で履修し、1単位は男女共習で各種目を履修する。

教科書：保体702新高等保健体育（大修館書店）
副教材：ステップアップ高校スポーツ（大修館書店）

学期	月	学 習 内 容				授業時数	備考		
		Aグループ	Bグループ	選択種目					
一 学 期	4	オリエンテーション 体づくり運動 P6-25 白鷗体操				8			
	5	体力テスト P378-381				8			
	6	陸上競技 P54-83（走跳投）				4			
						4			
		7	水 泳 P84-101 基本泳法の習得、20分間泳 等				4		
二 学 期	9	水 泳 基本泳法の習得、20分間泳 等				7			
	10	バスケットボール P102-123	ニュースポーツ (種目未定)	武道・球技選択		ダンス選択			
				柔道 P276-283	球技 ソフトバレーボール P180-199 (バレーボール参照)	ダンス P298-321	9		
				11	ニュースポーツ (種目未定)	バスケットボール P102-123		9	
				12				5	
三 学 期	1	陸上競技 P62-63（長距離走） なわとび		球技 ソフトバレーボール P180-199 (バレーボール参照)	柔道 P272-283	ダンス P298-321	8		
	2	体育理論					8		
	3	現代高等保健体育 P116-134					4		
						計 7 8 (2単位)			
評 価	各種目とも、出席状況・授業態度・実技点等を対象に観点別評価を行い、各種目の評価を合算して体育の評定とする。								

教科名 保健体育 科
科目名 保 健
対 象 4 学年全員

I 学習到達目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくことができる資質や能力を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

健康・安全に関する基礎的・体系的な知識を習得することにより、健康問題を認識して正しく判断し、適切に対処できるようにする。

III 教科書・副教材

教科書：保体 7 0 2 新高等保健体育（大修館書店）
副教材：図説 新高等保健（大修館書店）

IV 学習計画

期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4	1 学期末 考査	現代社会と健康 1) 健康課題の変遷 2) 健康の考え方 P12-15 3) ヘルスプロモーション P16-17 4) 健康に関する意思決定・行動選択 P20-21 5) 6) 感染症 7) 性感染症・エイズ P24-29 8) 生活習慣病 P32-33	図説 P4-7 P8-11 P12-13 P14-17 P18-23	3	
	5				4	
	6				4	
	7				3	
二 学 期	9	2 学期末 考査	現代社会と健康 9) ～11) 運動、食事、休養・睡眠 P34-41 12) がんの予防と回復 P42-43 13) ～15) 喫煙、飲酒、薬物乱用 P46-53 16) 17) 精神疾患の特徴と対応 P54-57	図説 P24-33 P36-43 P44-47 P48-53	3	
	1 0				5	
	1 1				4	
	1 2				3	
三 学 期	1	学年末 考査	安全な社会生活 1) 2) 交通事故 P62-65 3) 安全な社会の形成 P56-59 4) ～6) 応急手当、心肺蘇生 P60-61		3	
	2				4	
	3				3	
					計 3 9 (1単位)	
評 価	学習内容と各学期の期末考査で観点別評価を行い、各学期の評価を合算して保健の評定とする。 (ノート提出、小テスト等を評価の対象とする場合もある。)					

芸術科

I 芸術科の学習目標

音楽科の学習目標

- (1) 音楽Ⅰ 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質能力を高める。
- (2) 音楽Ⅱ 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質能力を高める。

美術科の学習目標

- (1) 美術教育を通して様々な表現を体験し、豊かな心情を養う。
- (2) 自己を表現することの喜びを味わわせ、発想豊かな想像力を育てる。
- (3) 日本および海外の美術を鑑賞することにより、ゆとりある美的情操を養う。
- (4) 美術が社会に与える影響や役割を理解し、自己表現の手段としての美術を理解できるようにする。
- (5) 自主的・自発的な発想を奨励し、自ら考えたことが作品になる喜びを味わわせる。

書道科の学習目標

- (1) 基本的な書写能力を高める活動を通し、書に親しむ心を養い、感性を豊かにする。
- (2) 書を通して自己を表現することの喜びを味わわせ創造力を伸ばす。
- (3) 書の文化や伝統を理解し、生涯にわたり書に親しむ心を育てる。

II 芸術科の3年間の科目構成と学習内容

	「科目」と学習内容				発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
1年	音楽Ⅰ(必修選択) 2単位 ・歌唱や三味線実技を通して創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 ・創作活動や表現活動に必要な音楽理論や楽典などの音楽的知識を深める。	美術Ⅰ(必修選択) 2単位 ・美術の制作活動全てを体験できるようにバランスよく、絵画・デザイン・映像メディア表現について学習する。 ・美術の幅広い創造活動を通して美術を愛好する心情を育てる ・美的体験を豊かにし感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。	書道Ⅰ(必修選択) 2単位 ・漢字・仮名・漢字仮名交じり書の基本を学ぶ。 ・古典の臨書を通して、書の文化や伝統を理解し、書の美に親しむ力を育てる。 ・臨書や鑑賞を通して感じ取った美的感性を自己の創作表現に活かす。		・各式典 ・文化祭 ・合唱コンクール
2年	(5年次は芸術科科目の設定なし)				
3年	音楽Ⅰ(自由選択) 2単位 ・音楽表現の技能や鑑賞能力をさらに高め、表現に生かす。 ・音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。	音楽Ⅱ(自由選択) 2単位 ・音楽表現の技能や鑑賞能力をさらに高め、表現に生かす。 ・音楽大学に進学を希望する生徒に向け、志望大学・志望学科・受験方法に対応した実技・演習を行う。	美術Ⅰ(自由選択) 2単位 ・美術の幅広い創造活動を通して美術を愛好する心情を育てる。 ・美的体験を豊かにし感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・自ら課題を設定し自由に制作を行い自己の表現力を伸ばす。	美術Ⅱ(自由選択) 2単位 ・1、2年次の制作活動をふまえ、さらに個性豊かな美術の表現能力を高める。 ・美術文化についての理解を深めさらに美術を愛好する心情を育てる。 ・自ら課題を設定し自由に制作を行い自己の表現力を伸ばす。	・個々の経験や志望校に応じ、適切な指導を行う。

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 芸術科
科目名 音楽Ⅰ
対象 4 学年 選択者

I 学習到達目標

- 1 演奏に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら表現活動を工夫する。
- 2 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、その他の芸術との関わり考えながら演奏したり鑑賞したりする。
- 3 音楽理論や楽典などの音楽的知識を深め、創作活動や表現活動に生かす。

II 授業の進め方（授業形態等）

歌唱 独唱・混声四部合唱・アカペラ
器楽 三味線実技 鍵盤楽器
鑑賞、創作、理論 講義形式またはグループワーク

III 教科書・補助教材

教科書 「MOUSA 1」教育芸術社
補助教材「やさしく学べる三味線入門」全音楽譜出版社
三味線道具

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期						
	4		「Ave Maria」読譜、呼吸法、発声法(P10～11)		4	
	5		校歌（混声四部合唱） 「Lemon」 (P12) 楽典(P150～155) 三味線実技演習	三味線入門	3 3 3	
	6	1 学期 期 末 考 査	三味線実技演習	三味線入門	5	
	7		鑑賞「世界の諸民族の音楽」 (P98～101) 「Caro mio ben」 (P24、26～29) 実技試験		2 6 2	
	夏休み 宿 題		課題等			
	9		「Caro mio ben」発表 (P24、26～29)	三味線入門	2	
二 学 期	1 0		三味線、鍵盤楽器創作 「Heidenroslein」 (P54～59) 楽典(P150～155) 混声四部合唱		6 4 2 4	
	1 0	2 学期 期 末 考 査	鑑賞「交響曲第9番ニ短調第4楽章」(P130～133)		2	
	1 1		混声四部合唱		8	
	1 2		三味線、鍵盤楽器創作発表 実技試験		4 2	
	冬休み 宿 題					
三 学 期	1	3 学期 学年末 考 査	合唱コンクール 発表曲練習 楽典(P150～155)	合唱コンクール発表	6 2	
	2		ソルフェージュ(P18～20)		2	
			モーツァルトの作品をたどろう (P145～147)		4	
	3		実技試験		2	
					計 7 8 (2単位)	
評 価	各学期実技テストや単元テストに平常点（宿題やワークシートの提出・授業中の取り組み）を加味したものを評価の対象とし、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別で評価する。					

教科名 芸術科
科目名 美術Ⅰ
対象 4 学年選択者

I 学習到達目標

- 1 美術教育を通して様々な表現を体験し、豊かな情操を養う。
- 2 美的体験を通し豊かな感性を養い、感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 4月から7月は着色デッサン・商品デザインの学習を行い、平面での三次元表現と視覚伝達デザインの基礎を学習する。
- 2 9月から12月はパッケージデザインを中心にデザインの学習を行い、商品を生み出す楽しさと難しさを味わう。
- 3 1月から3月は小学校からの美術・図工教育を振り返り、伝統的な表現手段である版画で作品を仕上げる。

III 教科書・補助教材

教科書 高校生の美術1（日本文教出版）

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト	※実施しない			
	4 5		○オリエンテーション ○着色デッサン ①パネルに水張り ②エスキース(構想)について ③構図について ④明暗も付け方について ⑤配色について		2 20	
	7		○パッケージデザイン ①コンセプトについて ②視覚伝達デザインの基礎		6	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト	※実施しない			
二 学 期	9		○パッケージデザイン ※7月より継続 ・タイポグラフィ(ロゴデザイン) ・作図から下描き ・着色 ・組み立て		20～24	
	10					
	11					
	12		○版画制作 ※3学期も継続 ・制作のための下準備		4～6	
三 学 期	冬休み 宿 題	宿 題 テスト				
	1		○美術/図工の授業を振り返って ※2学期より継続 ①下描き ②版作り ③刷り		10～14	
					計70～78 (2単位)	
評 価			・ 考查を実施しないため、「授業に臨む姿勢」「構想・アイディア」(プリント類)「作品」で観点別評価を行う。 なお毎年提出物等で評価が大きく分かれることが多いため、注意してもらいたい。			

教科名 芸術科
科目名 書道Ⅰ
対象 4 学年選択者

I 学習到達目標

1	書に親しむ心を養い、感性を豊かにし、書写能力を高めるとともに、書の表現と鑑賞の能力を伸ばす。
---	--

II 授業の進め方（授業形態等）

1	漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じり書の学習
2	臨書を中心として創作作品も制作
3	全体指導と個別添削指導による授業

III 教科書・補助教材

教科書	新編 書道Ⅰ（教育出版）
-----	--------------

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿題					
	4		書写から書道へ 表紙 用具の種類とその扱い方についてP. 2～4 基本的筆使いP. 12～13 生活の中の書P. 6 様々な漢字の書P. 14～17		2 2 2	
	5		楷書の学習P. 22～39 九成宮醴泉銘「楷法の極則」P. 18～19 22		4	
	6		孔子廟堂碑「明るく穏やかな用筆」P. 20～21 23 雁塔聖教序「軽快」顔氏家廟碑「重厚」P. 26 27 29		4 4 4	
	7		牛橛造像記「方勢」鄭義下碑「円勢」P. 33 漢字の書の創作 P. 70～75		6	
	夏休み 宿題					
二 学 期	9		行書の学習 P. 34～35 蘭亭序「用筆、字形ともに優れた完成された姿」P. 36～37 40～44		2 4	
	10		風信帖「筆力に満ちた変化に富む書風」P. 51～53 三筆、三跡 P. 54～55 篆書の学習 泰山刻石「小篆の典型」P. 56～58		4 4 2	
	10 11		隸書の学習 曹全碑「破磔、横長の字形」 P. 65～67		4	
	12		草書の学習 書譜「躍動感のある芸術的表現」 P. 68～69 仮名の学習 P. 82～106 仮名の成立P. 84 基本P. 86～87 平仮名 P. 88～89 変体仮名P. 90～91 書式の教室P. 124～127		2 2 2	
	冬休み 宿題					
三 学 期	1		連綿 P. 92～93 蓬萊切「端正な字形、のびやかな線 質」P. 94～95		2	
	2		高野切第三種「明るいわかり易い字形」P. 96～97 俳句の創作 P. 100～102		3 3	
	3		漢字仮名交じりの書 P. 108～123 自分の表現を目ざして①② P. 114～119 名筆に学ぶ表現の工夫①② P. 113 感動や思い表現しよう P. 110～112		3 3 3	
					計 78 (2単位)	
評 価			・毎時間ごとに提出作品とテスト作品で観点別に評価 ・黒板や水白板使用の全体指導でアウトラインをつかみ、個別指導（添削指導）に積極的に参加して細部まで技法を会得 出来たか、文房四宝の忘れ物がないか等の授業態度も評価			

英語科

I 英語科の学習目標

- （1）外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学習する。
- （2）外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育成する。
- （3）外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション力を育成する。

II 英語科の3年間の科目構成と学習内容

4 年	英語コミュニケーションⅠ （必修）4単位	論理・表現Ⅰ （必修）2単位	
	1 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 2 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成する。 3 教わった英文を自分の言葉で他者に説明できるような能力を育成する。	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 3 自分の考えを構成立ててきちんと書くことができるよう基盤を作っていく。	
5 年	英語コミュニケーションⅡ （必修）4単位	論理・表現Ⅱ （必修）2単位	HAPiE (Hakuo Academic Presentation in English) 1単位（学校設定科目）
	1 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、コミュニケーション能力を伸ばす指導を発展的に行う。 2 速読したり精読したり、目的に応じた読み方をする。 3 話し合いをして結論をまとめる、まとまりのある文章を書くなど、統合的な言語活動を行う。	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 3 長い英文でも書けるように基礎固めをさらにする。	1 既習事項を深化させ、テーマに基づき、論理的に自分の考えを表現する力を身につけさせる。 また、様々な発表形態で自分の考えを発表させる。
6 年	英語コミュニケーションⅢ （必修）4単位	論理・表現Ⅲ（必修） 2単位	英語（名称仮） （文系・理系自由選択） 2単位
	1 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、コミュニケーション能力をさらに伸ばす。	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 3 3年間の集大成として英語でエッセイを書けるようにする。	1 幅広い話題について、読んだことを理解し、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 2 読解力を伸ばす。 3 総合的な英語力を高めるため、問題演習を中心に行う。
			HAPiE(Hakuo Academic Presentation in English) （学校設定科目）1単位
			1 英語論文 (Academic Essay) の書き方について学び、自らの主張や調査結果を論理的かつ的確に表現する力をつける。 2 事前に用意したプレゼンテーションを流ちょうにおこなう力をつける。 3 聴衆とのやりとりを英語で行い、自分の主張を論理的かつ明確に展開する力をつける。

教科名 英語科
科目名 英語コミュニケーションⅠ
対象 4学年全員

I 学習到達目標

日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、
1 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
2 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
3 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。
4 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
5 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。

II 授業の進め方（授業形態等）

1 週4時間授業を行う。授業形態はクラス単位でペアワーク・グループワークを中心に、オンライン英会話は個別に行う。
2 1年間の授業の数156時間。
3 3時間は教科書を用いて4技能をバランスよく養成する、1時間はオンライン英会話を実施する。

III 教科書・補助教材

教科書 「Enrich Learning」東京書籍
補助教材 Focus on Listening Pre-Standard エミル出版
Rapid Reading 改訂版 Level 2 美誠社
夢を叶える英単語 新コメタン1 大学合格必須レベル アルク

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト	英単語、文法、長文、リスニング	中学3年間の総復習	1	
	4	1 学期 中 間 考 査	Unit 1 What can happen in one second? 【言語材料】受け身／不定詞／動名詞	作成プリント 単語テスト 単元テスト	13	
	5		Unit 2 What do superstitions mean to you? 【言語材料】助動詞＋受け身／現在完了進行形 【言語の働き】驚く／興味や関心を表す		16	
	6 7	1 学期 期 末 考 査	Speaking Review Task (Unit 1, Unit 2) Unit 3 How can we promote sustainability 【言語材料】分詞の形容詞用法／関係代名詞 【言語の働き】誘う／断る	作成プリント 単語テスト 単元テスト	5 15	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト	英単語、文法、長文、リスニング			
二 学 期	9 10	2 学期 中 間 考 査	Unit 4 What can we learn from native Hawaiians? 【言語材料】現在完了形の受け身／過去完了形 【言語の働き】迷いを伝える／アドバイスする Speaking Review Task (Unit 3, Unit 4)	作成プリント 単語テスト 単元テスト	17 8	
	10 11 12	2 学期 期 末 考 査	Unit 5 Why do people tell each other stories? 【言語材料】SVOC [分詞]／関係副詞how／助動詞の過去形 【言語の働き】心配事を伝える／援助を申し出る Unit 6 What are the qualities of a good leader? 【言語材料】分詞構文／関係副詞where [when/why] 【言語の働き】返答する／相づちを打つ Speaking Review Task (Unit 5, Unit 6)	作成プリント 単語テスト 単元テスト	18 17	
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト	英単語、文法、長文、リスニング			
	1 2 3	3 学期 学年末 考 査	Unit 7 Where will you live in the future? 【言語材料】原形不定詞／仮定法過去完了／過去完了進行形 【言語の働き】反論する／同意する Unit 8 How do cultures and traditions affect teens' lives? 【言語材料】関係代名詞what／関係代名詞の非制限用法 【言語の働き】習慣を表す／共感する Speaking Review Task (Unit 7, Unit 8)	作成プリント 単語テスト 単元テスト	17 17 6	
					計 156 (4単位)	
評 価			学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査（各学期、年間5回）、②宿題テスト（夏休み、冬休み、年間2回）、③小テスト（単語・単元）、④パフォーマンステスト（書く、話す）、⑤提出物（宿題ノート、課題プリント、週末課題）、⑥学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）			

教科名 英語科
科目名 論理・表現Ⅰ
対象 4学年全員

I 学習到達目標

- 1 英語を聞いたり話したりすることで会話能力を高める。
- 2 身近な題材をもとに段階的に学び、英語で話したり書いたりする力を身につける。
- 3 ペア、グループでの発表を通してプレゼンテーション能力を高める。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 週 2 時間、2 クラス 3 展開の習熟度で授業を行う。
- 2 年間授業数 7 8 時間
- 3 2 時間中 1 時間は日本人教員を中心に教科書を用いて学び、1 時間はALTと教科書のコミュニケーション活動を行う。

III 教科書・補助教材

教科書	「FACTBOOK English Logic and ExpressionⅠ」 桐原書店				
副教材	総合英語	Factbook	これからの英文法	New Edition	桐原書店
	総合英語	Factbook	New Edition English Grammar	Advanced	桐原書店
	総合英語	Factbook	New Edition English Grammar	Advanced Workbook	桐原書店

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業 時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト	英単語、文法、長文、リスニング	中学3年間の総復習		
	4	1 学期 中 間 考 査	Unit0 Get to know more about your classmates	Factbook English Grammar	2	文法テス ト等
	5		Unit1 Smart home, smart city	第1章 文型(1)	4	
	5		Unit2 History and future of our town	第2章 文型(2)	4	
			TL1 The town you want to live in in the future	第3章 文型(3)	3	
				Plus 文型		
二 学 期	6	1 学期 期 末 考 査	Unit3 Preparing for a natural disaster	第4~5章 時を表す表現	5	文法テス ト等
	7		Unit4 Water supporting our lives	第6~7章 完了形	5	
			TL2 Can you continue eco-friendly activities?	第8~10章 助動詞	5	
			Q&A after a Speech	第11~12章 受動態		
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト	英単語、文法、長文、リスニング	Option③~⑦ 名詞、形容詞、副詞		
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	Unit5 Save food you can still eat!	第13~15章 不定詞	5	文法テス ト等
	10		Unit6 How can we become more health-conscious?	第16~17章 動名詞	5	
			TL3 What can we do to reduce food waste?	第18~19章 分詞	5	
			Making a presentation			
二 学 期	11	2 学期 期 末 考 査	Unit 7 How many clothes do you buy?	第20~22章 比較	4	文法テス ト等
	12		Unit 8 How do you decide which products to buy?	第23~25章 関係詞	5	
			TL4 Think before you buy!		5	
三 学 期	冬休み 宿 題	宿 題 テスト	英単語、文法、長文、リスニング	Option⑧~⑩ 前置詞、接続詞、話		
				Option①~② 様々な表現、話法		
	1	3 学期 学年末 考 査	Unit9 A variety of ways to improve your English	第26~27章 パッケージ表現とし	8	文法テス ト等
	2		Unit10 How can we become foreigner friendly?	ての節	7	
	3		TL5 How can we make our community foreigner-friendly?	第28~29章 仮定法	5	
三 学 期				第30~31章 否定		
				第32章 疑問詞・疑問文		
評 価					計 78 (2単位)	
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査（各学期、年間5回）、②小テスト（復習テスト）、③提出物（宿題ノート、課題プリント、週末課題）、④パフォーマンステスト（書く、話す）、⑤ 学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）					

家庭科

I 家庭科の学習目標

- （1）人間の健全な発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と者会の関わりについて理解する。
- （2）生活を営むために必要な衣食住や消費生活などに関する知識や技術を総合的に身につける。
- （3）男女が協力して自分から進んで生活を創造する能力と実践的態度を身につける。

II 家庭科の3年間の科目構成と学習内容

	家庭基礎（必修） 計2単位		発展的な内容 特色ある活動、関連する行事
	A領域	B領域	
4年	＜住生活 一人間らしく住む＞ 住まいの選択 ライフスタイルと住まい さまざまな家族・さまざまな住まい 住まいの安全・安心 住環境の安全・安心 環境共生の今・昔 住まいづくり・まちづくりへの参加 ＜高齢者 一高齢者と生きる＞ 高齢者を知る 高齢社会の現状と課題 高齢者の尊厳と自立の支援 高齢者を支える制度としくみ ＜社会福祉 一支援あい共に生きる＞ 生活を支える福祉と社会保障制度 共生社会の実現に向けて ＜食生活 一楽しく安全に食べる＞ 食べることを通して 栄養と食品 栄養素の働きと食品の栄養 食品の選択 食品の取り扱い 食品の安全性 豊かな食生活の背景には 食事をつくる 調理実習 ＜消費・環境 一消費社会を生きる＞ お金の管理とライフデザイン 暮らしと経済のかかわり 意思決定と契約 購入方法の多様化 消費者問題 消費者保護 持続可能な社会をめざして 消費者市民社会 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	＜自分・家族 一多様化した社会に生きる＞ これからをどう生きるか 青年期の自立 社会の変化と家族 家族・人生・生き方と法律 多様な課題を抱える家族・家庭 持続可能な生活と仕事 多様な生き方を保証する社会へ ＜衣生活 一選んで着る＞ 衣生活を見直す 衣服の機能と着装 衣服の材料と成り立ち 衣服の管理 安心して衣服を着るために いろいろな人が着る衣服 これからの衣服 作品製作実習 ＜子ども 一子どもと生きる＞ 子どもと出会う 子どもの心と体の発達 子どもの生活 子どもと遊び 子どもの育つ環境と社会 子どもの権利と福祉 子どもと共に育つ ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	体験学習 ・車椅子体験 ・シニア疑似体験 ・デイケアセンターとの交流 ・福祉作業所との交流 学校家庭クラブ活動 ・こども園との交流
5年	5年次は家庭科の科目設定なし		
6年	6年次は家庭科の科目設定なし		

教科名 家庭科
科目名 **家庭基礎**
対象 4 学年全員

I 學習到達目標

- 1 家族や地域的生活課題を解決し、男女が協力して家庭生活を経営する力を身につけるようにする。
- 2 衣食住の生活を科学的に理解し、基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、充実した生活を営むことができるようにする。
- 3 家族、消費生活について理解し、生涯の生活設計について主体的に考えることができるようにする。
- 4 自立して生きていく力を身につけると共に、支え合って生きることの重要性を理解し主体的に行動できるようにする。

Ⅱ 授業の進め方（授業形態等）

- 1 1クラスを2グループに分けて少人数授業を行う。(20名を1講座)
2 各クラスの2つのグループは、各学期とも入れ替わってA領域・B領域 両方の学習内容を学ぶ。

III 教科書・補助教材

教科書 「家基706 Agenda家庭基礎」実教出版
補助教材 「2022 最新 生活ハンドブック 資料&成分表」第一学習社
「家基706Agenda家庭基礎準拠学習ノート」

IV 学習計画

学期	月	学 習 内 容				授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容		副教材・その他の学習内容			
一 学 期			ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動					
	4	1 学期 期 末 考 査	< A 領域 > 住生活 住まいの選択...P148～ ライフスタイルと住まい...P150～ さまざまな家族・さまざまな住まい...P152～ 住まいの安全・安心...P154～ 住環境の安全・安心...P15～6 環境共生の今・昔...P15～8 住まいづくり・まちづくりへの参加...P160～ 高齢者 ―高齢者と生きる― 高齢者を知る...P64～ 高齢社会の現状と課題...P66～ 高齢者の尊厳と自立の支援...P68～ 高齢者を支える制度としくみ...p 72～ 社会福祉 生活を支える福祉と社会保障制度...P74 共生社会の実現に向けて...P78～	< B 領域 > 自分・家族 これからをどう生きるか...P12～ 青年期の自立 P16～ 社会の変化と家族 P20～ 家族・人生・生き方と法律 P22～ 多様な課題を抱える家族・家族 P26～ 持続可能な生活と仕事 P28～ 多様な生き方を保証する社会へ P32～	< A 領域 > 住生活 P84～102 高齢者 P34～42 共生 P46～50	< B 領域 > 家族・家庭 P4～16	A 1 4 B 1 4 合計 2 8	
	5							
	6							
7								
	夏休み		ホームプロジェクトコンクール応募					
二 学 期	9	2 学期 期 末 考 査	食生活 食べることを通して...P84～ 栄養と食品...P88 ～ 栄養素の働きと食品の栄養...P92～ 食品の選択...P102～ 食品の取り扱い...P106～ 食品の安全性...P108～ 豊かな食生活の背景には...P110～ 食事をつくる...P112～ 調理実習...P116～	衣生活 衣生活を見直す...P126～ 衣服の機能と着装...P128～ 衣服の材料と成り立ち...P130～ 衣服の管理...P134～ 安心して衣服を着るために...P138～ いろいろな人が着る衣服...P142～ これからの衣服...P144～ 作品製作実習	< A 領域 > 食生活 P122～160 調理の基本 P164～172 食品成分表 P176～ 340	< B 領域 > 衣生活 P56～P82	A 1 5 B 1 5 合計 3 0	
	10							
	11							
	12							
	冬休み		ライフプラン					
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	消費・環境 お金の管理とライフデザイ...P164～ 暮らしと経済のかかわ...P168～ 意思決定と契約...P170～ 購入方法の多様化...P172～ 消費者問題...P176～ 消費者保護...P178～ 持続可能な社会をめざして...P180～ 消費者市民社会...P184～	子ども ―子どもと生きる― 子どもと出会う...P36 子どもの心と体の発達...P38 子どもの生活...P44 子どもと遊び...P50 子どもの育つ環境と社会...P54 子どもの権利と福祉...P58 子どもと共に育つ...P60	< A 領域 > 消費・環境 P104～118	< B 領域 > 子どもの発達 P18～32	A 1 0 B 1 0 合計 2 0	
	2							
	3							
							計 7 8 (2 単位)	
評 価			家庭基礎の学習内容を2領域に分け、展開して授業を行ったものに対し各々評価を出し、合算して5段階の評定を行う。 学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。①定期考査（各学期1回、年間3回）、②提出物（ノート、課題プリント、作品）、③学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）					

情報科

I 情報科の学習目標

- (1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得する。
- (2) 情報社会と人との関わりについて理解を深める。
- (3) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (4) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

II 情報科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	(1年次は情報科の科目設定なし)	(1年次は情報科の科目設定なし)
	2年	(2年次は情報科の科目設定なし)	(2年次は情報科の科目設定なし)
	3年	(3年次は情報科の科目設定なし)	(3年次は情報科の科目設定なし)
高校段階	4年	「情報Ⅰ」2単位 1. 情報社会の問題解決 2. コミュニケーションと情報デザイン 3. コンピュータとプログラミング 4. 情報通信ネットワークとデータの活用	データの分析と検定の考え方は、数学Ⅰのデータの分析に、区間推定は数学Bの統計的推測に、確率的モデルのシミュレーションは、数学Aの場合の数と確率、数学Bの数 列、数学Ⅲの極限に関連する。 一人1台端末の活用も含め、I C Tを活用した授業を実施する。
	5年	(5年次は情報科の科目設定なし)	(5年次は情報科の科目設定なし)
	6年	自選科目「情報Ⅰ演習」2単位 共通テストを中心とした大学入試対策を行う。 学習内容は「情報Ⅰ」と同様です。 1. 情報社会の問題解決 2. コミュニケーションと情報デザイン 3. コンピュータとプログラミング 4. 情報通信ネットワークとデータの活用	過去の入試問題演習を行う。また、入試問題に出題されたことのある内容のプログラミングを実際に作成することで、コンピュータとプログラミングの理解を深める。

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 情報科
科目名 情報Ⅰ
対象 4 学年全員

I 学習到達目標

- 1 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得する。
- 2 情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
- 3 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- 4 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 C A L L 教室での授業を基本とし、座学と実習を組み合わせた授業形態で実施する。
- 2 教員による講義、生徒による能動的な個人学習、生徒間交流学习によって授業を進行する。
- 3 年に数回、個人またはグループで作品制作や発表を行う。

III 教科書・補助教材

教科書 「高校情報Ⅰ JavaScript」 実教出版

補助教材「高校情報Ⅰ JavaScript 学習ノート」 実教出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数 （39週）	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・ その他の学習内容		
一 学 期	4	1 学期 期 末 考 査	第1章「情報社会」P4～P19 情報と情報社会／問題解決の考え方／法規による安全対策／個人情報とその扱い／知的財産権の概要と産業財産権／著作権	「学習ノート」 P2～P15	7	
	5		第2章「情報デザイン」P22～P41 コミュニケーションとメディア／情報デザインと表現の工夫／Webページと情報デザイン（HTMLとCSS）／プレゼンテーション	「学習ノート」 P16～P25	10	
	6		第3章「デジタル」P44～P67 デジタル情報の特徴／数値と文字の表現／演算のしくみ／音の表現／画像の表現／コンピュータの構成と動作／コンピュータの性能／データの圧縮と効率化	「学習ノート」 P26～P43	10	
	7		期末考査		1	
二 学 期	9	2 学期 期 末 考 査	第4章「ネットワーク」P70～P93 ネットワークとプロトコル／インターネットの仕組み／Webページの閲覧とメールの送受信／情報システム／情報システムを支えるデータベース／データベースの仕組み／個人による安全対策／安全のための情報技術	「学習ノート」 P44～P61	8	
	10		第5章「問題解決」P96～P127 データの収集と整理／ソフトウェアを利用したデータの処理／統計量とデータの尺度／データの分析と検定の考え方／時系列分析と回帰分析／区間推定とクロス集計／モデル化とシミュレーション／確率的モデルのシミュレーション	「学習ノート」 P62～P81	16	
	12		期末考査		1	
			第6章「プログラミング」P130～P137 アルゴリズムとプログラミング／プログラミングの基本	「学習ノート」 P82～P85	4	
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	第6章「プログラミング」P138～P173 配列／関数／探索のプログラム／整列のプログラム／オブジェクト指向プログラミング／プログラムの設計方法／オープンデータの活用／プログラムによる動的シミュレーション／計測・制御とプログラミング	「学習ノート」 P86～P105	20	
	2					
	3		学 年 末 考 査		1	
					計 78 (2単位)	
評 価			・授業内外における提出物（実習の成果を含む）、各学期期末考査の得点を評価の対象とする。 ・評価は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価（ABC）と5段階の評定によって行う。 ・評価物はいずれも上記の観点別評価で行う。			

教科名 情報科
科目名 情報Ⅰ 演習
対象 6 学年 (文系理系問わず、大学入試において情報Ⅰを必要とする生徒)

I 学習到達目標

情報Ⅰの内容を踏まえ、入試問題に対応する力を養う。	
1	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得する。
2	情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
3	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
4	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

II 授業の進め方（授業形態等）

1	CALL教室での授業を基本とし、座学と実習を組み合わせた授業形態で実施する。
2	教員による講義、生徒による能動的な個人学習、生徒間交流学習によって授業を進行する。

III 教科書・補助教材

教科書 「高校情報Ⅰ JavaScript」 実教出版
補助教材「高校情報Ⅰ JavaScript 学習ノート」 実教出版
他、補助教材として共通テスト対策となるものを使用予定

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数 (39週)	備考
		考 査	「教科書」の学習内容 副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4		第1章「情報社会」P4～P19 情報と情報社会／問題解決の考え方／放棄による安全対策／個人情報とその扱い／知的財産権の概要と産業財産権／著作権	「学習ノート」 P2～P15	28
	5		第2章「情報デザイン」P22～P41 コミュニケーションとメディア／情報デザインと表現の工夫／Webページと情報デザイン（HTMLとCSS）／プレゼンテーション	「学習ノート」 P16～P25	
	6		第3章「デジタル」P44～P67 デジタル情報の特徴／数値と文字の表現／演算のしくみ／音の表現／画像の表現／コンピュータの構成と動作／コンピュータの性能／データの圧縮と効率化	「学習ノート」 P26～P43	
	7		第5章「問題解決」P96～P127 データの収集と整理／ソフトウェアを利用したデータの処理／統計量とデータの尺度／データの分析と検定の考え方／時系列分析と回帰分析／区間推定とクロス集計／モデル化とシミュレーション／確率的モデルのシミュレーション	「学習ノート」 P62～P81	
	4				
	5				
	6				
	7	1 学期 期 末 考 査	期末考査		1
二 学 期	9		第4章「ネットワーク」P70～P93 ネットワークとプロトコル／インターネットの仕組み／Webページの閲覧とメールの送受信／情報システム／情報システムを支えるデータベース／データベースの仕組み／個人による安全対策／安全のための情報技術	「学習ノート」 P44～P61	28
	10		第6章「プログラミング」P130～P173 アルゴリズムとプログラミング／プログラミングの基本配列／関数／探索のプログラム／整列のプログラム／オブジェクト指向プログラミング／プログラムの設計方法／オープンデータの活用／プログラムによる動的シミュレーション／計測・制御とプログラミング	「学習ノート」 P82～P105	
	11				
	12	2 学期 期 末 考 査	◆共通テスト等入試演習 期末考査		1
三 学 期	1 2 3		◆共通テスト等入試演習		20
				計 78 (2単位)	
評 価			・授業内外における提出物（実習の成果を含む）、各学期期末考査の得点を評価の対象とする。 ・評価は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価（ABC）と5段階の評定によって行う。 ・評価物はいずれも上記の観点別評価で行う。		

外国語科

I ドイツ語の学習目標

- （1）外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- （2）外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- （3）外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II ドイツ語科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	開講せず	開講せず
	2年	- ドイツ語の初歩（アルファベット、発音など）を学習し、基本的な挨拶、自己紹介、初歩的な日常会話ができるようにする。 - ドイツの歴史、文化、実情に触れることで、ドイツさらにはヨーロッパ、世界への関心を呼び起こす。	- ATLによる発音練習、聞き取り演習。 - 小テスト、単語ゲームなどで学習した単語の定着。 - 自己紹介原稿など、基本的な分を書けるようにする。 - スピーチ、ドラマの台詞などを暗唱し、発表する。 - DVDあるいは講師を招いて、ドイツ文化（音楽、食、スポーツなど）に親しむ。
	3年	- 中学二年生で学んだドイツ語をさらに発展させて学習し日常会話などができるようにする。 - 正しい発音、基本的文法事項を徹底する。 - ドイツの過去と現代、ドイツ文化の特徴を学び、その知識を深める。 - ドイツ、ヨーロッパ、世界への関心を深める。	- ラジオ教材の活用など聞き取り練習 - 語彙を増やす。 - スキットの作成、発表 - 文法、語法の演習 - にt気を書き、少しまとまった文を書けるようにする。 - 暗唱など口頭発表活動 - 副読本を読む。
高校段階	4年	- 中学で学んだドイツ語をさらに発展させて学習し、日常会話などから実際に使うことができるドイツ語ができるようにする。 - ドイツの歴史と現代のドイツ、ドイツ文化の特徴を学び、その知識をさらに深める。さらに自ら考え表現する能力と態度を身につける。	- プレゼンテーションを中心とした発展的活動 - 文法、語彙、表現力を強化する活動 - 副読本を読む。 - 聴解力強化 - スピーチ、ダイアログを行う。
	5年	- 中学で学んだドイツ語をさらに発展させて学習し、日常会話などから実際に使うことができるドイツ語ができるようにする。 - ドイツの歴史と現代のドイツ、ドイツ文化の特徴を学び、その知識をさらに深める。さらに自ら考え表現する能力と態度を身につける。	- プレゼンテーションを行う - やさしいニュースを聞く - 文法、語彙、表現力を強化する活動 - 副読本を読む。 - 聴解力強化 - スピーチ、ダイアログを行う。
	6年	大学入試（共通テスト・私大入試）で扱われている外国語科目に対応できるだけの能力をつける。 ・大学入試問題（採用している大学のみ）などの演習を実施 【長文理解に加えて、背景を学ぶ】 【いろいろなテーマについて内容豊かに描く】 【話し合ったり、討論したりする】	- 文法、語法、構文の演習 - 語彙増強 - 読解力の向上 - リスニングテストで聞き取り練習 - 各自の必要に応じた力の伸長 - プレゼンテーションを行う。

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名外国語科
科目名 ドイツ語
対象 高校1学年

I 学習到達目標

- 1 ドイツ語への関心、学習意欲を呼び起こす。
- 2 初歩的なドイツ語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- 3 ドイツ語の基本的表現を学習し、それを使って言いたいことを相手に伝えたり、相手の意見を聞いたりする能力を身につける。
- 4 ドイツ語が使われている国の人々や生活について学習し、日本との違いや共通点を理解する。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 2クラス4展開で選択授業を行う。
- 2 副教材を活用し基礎を固めるとともに発展的な学習を行う。
- 3 定期的に単語テストや小テストを行い、基本的な文法事項の定着をはかる。

III 教科書・補助教材

教科書 「シュリット・フュア・シュリット」三修社
今井田亜弓他

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題					
	4	授 業 内 考 査	L0 ドイツ語のアルファベットと発音の規則	・自己紹介で使える簡単な会話表現を身につける。 ・基本文型の習得。 ・ドイツの文化、ドイツ人の性格などを紹介。	2	
	5		L1 動詞の現在人称変化、人称代名詞、語順、sein動詞、否定表現		8	
	6	授 業 内 考 査	L2 名詞の性と格変化（1，4格） haben動詞 neinとdochの使い分け	・基本文型の習得。 ・小テストを実施し、語彙と表現の定着をはかる。	8	
	7				4	
	夏休み 宿 題		1学期の復習	プリント		
二 学 期	9	授 業 内 考 査	L3 その他の格（3・2）	・基本文型の習得。 ・小テストを実施し学んだ単語、文法事項の活用を図る。 ・ドイツの食文化を紹介。	8	
	10		L4 不規則動詞の現在人称変化 命令形 L5 不定冠詞類 所有冠詞、否定冠詞kein、		10	
	10	授 業 内 考 査	L6 前置詞 分離動詞・非分離動詞	・基本文型の習得。 ・小テストを実施。 ・ドイツの歌（第九）を紹介。	10	
11	L7 話法の助動詞		10			
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト	1～2学期の総復習。	・単語プリント。 ・文法プリント		
三 学 期	1	授 業 内 考 査	L8 動詞の3基本形 副文（従属文）	・基本文型の習得。 ・小テストを実施。	8	
	2				4	
					計 70 （2単位）	
評 価	以下の点から総合的に評価する。 ・毎学期の授業内考査により、知識・理解度をみる。 ・ドイツ語で自己紹介の文を論理的かつ物語的に作成して発表することにより、思考・判断・表現の能力をみる。 ・小テストや課題提出などを通して、学習意欲をみる。 ・ドイツの文化に関して自ら調べることを通じて、主体的に学習に取り組む態度を醸成する。					

第二外国語科

I ドイツ語の学習目標

- (1) 外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- (2) 外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- (3) 外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II ドイツ語科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	開講せず	開講せず
	2年	- ドイツ語の初歩（アルファベット・発音など）を学習し、基本的な挨拶、自己紹介、初歩的な日常会話ができるようにする。 - ドイツの歴史、文化、実情に触れることで、ドイツ、さらにはヨーロッパ、世界への関心を引き起こす。	- ALT による発音練習、聞き取り練習。 - 小テスト、単語ゲームなどで学習した単語の定着。 - 文法、語法の演習。 - 自己紹介などの基本的な文を書けるようにする。 - スピーチ、ドラマの台詞などを暗唱し、発表する。
	3年	- 中学2年生で習得したドイツ語を更に発展させて学習し、日常会話などが出来るようにする。 - 正しい発音、基本的文法事項を徹底する。 - ドイツ語圏の国々の過去から現代に至るまで、ドイツ語圏文化の特徴を学び、その知識を深める。 - ドイツ語圏の国々やヨーロッパ、ひいては世界への関心を深める。	- ラジオ教材を活用するなどした聞き取り練習 - 語彙を増やす - スキットの作成と発表 - 文法、語法の演習 - 日記を書き、少しまとまった文を書けるようにする - 暗唱などの口頭発表 - 副読本を読む
高校段階	4年	- 中学2・3年生で習得したドイツ語を更に発展させて学習し、日常会話のもとより、応用力も身に付けられるようにしていく。自分の意見も表現出来るようにする。 - ドイツ語圏の国々の過去から現代に至るまで、ドイツ語圏文化の特徴を学び、その知識を深める。 - ドイツ語の基本文法を習得する。	- プレゼンテーションなどの発展的活動 - 文法、語彙、表現力を強化する活動 - 副読本を読む - 聞き取り能力の強化 - スピーチ、ダイアログを行う
	5年	- これまでに習得したドイツ語を更に発展させて学習し、日常会話のもとより、応用力も身に付けられるようにしていく。自分の意見も表現出来るようにする。 - ドイツ語圏の国々の過去から現代に至るまで、ドイツ語圏文化の特徴を学び、その知識を更に深める。 - ドイツ語で自ら考え表現する能力と態度を身に付ける。 - ドイツ語基本文法の知識を確かなものとしていく。	- プレゼンテーションなどの発展的活動 - 文法、語彙、表現力を強化する活動 - 副読本を読む - ニュースなどを使つての聞き取り能力の強化 - スピーチ、ダイアログを行う
	6年	- ドイツ語でひととおりの文法事項と読解力を習得し、運用出来る実力を付けていく。 - 強制ではないが、ドイツ語で大学入試を受験し合格することも可能なレベルに到達する。 〔長文読解、及びその背景を探索〕 〔色々な内容のテーマについて豊かに表現する〕 〔話し合ったり討論したりする練習〕	- プレゼンテーションなどの発展的活動 - 文法、構文、表現力を強化する練習 - 語彙を豊富にする - 読解力の向上 - リスニングテストなどによる聞き取り能力の強化 - 生徒それぞれの必要や能力に応じた個別指導

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

科目名 ドイツ語
対象 高校1学年選択（初中級）

I 学習到達目標

- 1 中学の2年間で習得したドイツ語の知識をより確かなものとしていく。
- 2 ドイツ語の基本的な表現を学習し、それを使って言いたいことを相手に伝えたり、相手が伝えようとしていることを理解する能力を身に付ける。
- 3 ドイツ語圏の国々の歴史・文化・政治・習慣などについての知識と理解を深める。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 週1回2時間で選択授業を行う。
- 2 ドイツ語での挨拶、自己紹介、基本的表現などを、言ったり書いたり聞き取ったり出来るように繰り返し練習する。
- 3 定期的に単語テストや小テストを行い、基礎文法事項の定着をはかる。

III 教科書・補助教材

教科書 新倉真矢子他著 「シュピッツェ！1」 朝日出版社

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期						
	4	授業内 考 査	中学の2年間で学んだことの復習と確認	文法・読解・語彙・表現力の強化	8	
	5		前置詞 所有冠詞と人称代名詞 話法の助動詞	発音と会話の練習	8	
	6	授業内 考 査	分離動詞	文法・読解・語彙・表現力の強化	8	
	7		命令形 時刻の表現	発音と会話の練習	4	
	夏休み 宿 題		不規則動詞の変化を暗記			
二 学 期	9	授業内 考 査	形容詞の格変化 比較級と最上級	文法・読解・語彙・表現力の強化	8	
	10		再帰代名詞と再帰動詞	発音と会話の練習 短編の文学作品を読む	10	
	10	授業内 考 査	動詞の3基本形 過去人称変化	文法・語彙・表現力の強化	10	
	11			簡単なニュースを理解する	10	
	冬休み 宿 題		1・2学期の復習、短文読解、単語の暗記			
三 学 期	1	授業内 考 査	現在完了形 過去分詞の作り方	文法・語彙・表現力の強化	8	
	2		分離動詞の現在完了形	ドイツ語で書かれた本や記事を読む	4	
					計 78 (2単位)	
評 価			以下の観点から総合して評価する。 ・毎学期の定期考査により、知識・理解度をみる。 ・ドイツ語での簡単な発表活動を通し、主体的に学習に取り組む態度をみる。 ・小テストや課題提出などを通して、思考・判断・表現の技能をみる。 ・小テストや定期考査などで、ドイツ語やドイツ語圏の国々の文化についての知識・理解をはかる。			

第2外国語科

I スペイン語の学習目標

- (1) 外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- (2) 外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- (3) 外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II スペイン語科の3年間の科目構成と学習内容

	「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
4年	・スペイン語の基礎を学習し、挨拶や、身近な事柄についての簡単な会話のやり取りができるようにする。 ・直説法までの文法を習得する。 ・スペインを中心に、スペイン語を話す国々について幅広く知る。 ・スペイン語技能検定6級の取得を目指す。	・語彙力の強化 ・直説法までの文法の問題演習 ・習得した文法や語彙を使つての文の作成 ・シャドウイングによる発音練習 ・暗唱 ・読解 ・スペイン語技能検定6級の過去問題の問題演習
5年	・4年生で学んだスペイン語を更に発展させて学習し、より応用的なスペイン語を習得するとともに、自分の意見を表現できるようにする。 ・スペイン語技能検定5級の取得を目指す。 ・DELE A1の取得を目指す。	・やさしいニュースを聞くなど、聴解力強化 ・文法力の強化 ・語彙力の強化 ・副教材の読解・発音練習 ・作文やスピーチ作成など表現力を強化する活動 ・シャドウイングによる発音練習 ・スペイン語技能検定5級およびDELE A1の過去問題の演習
6年	大学入試（私大入試）で扱われているスペイン語に対応できるだけの総合的な能力を身につける。 大学入試問題（採用している大学のみ）などの演習を実施する。 【長文読解】 【様々なテーマについて内容豊かに書く】 【スピーチ・プレゼンテーション】など。 ・スペイン語技能検定4級の取得を目指す。 ・DELE A2の取得を目指す。	・文法、語法、構文の演習 ・語彙力の更なる強化 ・語彙力の向上 ・リスニングテスト ・各自、志望校の過去問題を中心とした問題演習 ・スペイン語技能検定4級およびDELE A2の過去問題の演習

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 第2外国語科
科目名 スペイン語（初中級）
対象 4 学年自由選択

I 学習到達目標

- 1 中学で学んだスペイン語を更に発展させて学習し、より実用的なスペイン語を習得する。
- 2 自ら考え、表現する態度と能力を身につける。
- 3 スペイン語技能検定6級の取得を目指す。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 自由選択授業
- 2 教科書を中心に文法の基礎を固める。
- 3 定期的に検定試験の過去問題を取り扱い、実践的な力を身につける。

III 教科書・補助教材

教科書 「IDEAL（改訂新版）」宇野和美 平井素子 Paula Letelier 著 同学社
副教材 「スペイン語の入門」 瓜谷良平 著 白水社
適宜プリント（スペイン語技能検定・DELE 過去問題及び対策問題 他）
視聴覚教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題					
	4	1 学期 中 間 考 査	Lección 1 ¿De dónde eres? ・主語代名詞・動詞ser①・名詞	プリント 単語	4	
	5		Lección 2 Hola, ¿cómo estás? ・形容詞・動詞estar①・動詞ser②	視聴覚教材 小テスト	8	
			Lección 3 ¿Hay una farmacia? ・冠詞・存在を表すhay・動詞estar②・数詞			
	6	1 学期 期 末 考 査	Lección 4 Tomo un zumo de naranja. ・規則動詞・目的語につく前置詞 a・時刻表現	プリント 単語	8	
	7		Lección 5 ¿Conoces a Aya? ・間接目的語・直接目的語の人称代名詞 ・不規則動詞 I	視聴覚教材 小テスト 学期末テスト	4	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト				
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	Lección 6 Vamos a Disneylandia. ・不規則動詞 II・動詞tener, irを使った表現	プリント 単語	1 0	
	1 0		・所有形容詞・天候の表現 Lección 7 Quiero hacer deporte. ・不規則動詞 III・不定詞と目的語人称代名詞 ・指示形容詞	視聴覚教材 小テスト	1 0	
	1 1	2 学期 期 末 考 査	Lección 8 Aquí nos lavamos las manos. ・再帰代名詞を伴う動詞・不定詞と再帰代名詞	プリント 単語	1 0	
	1 2		Lección 9 Me gusta la naturaleza. ・gustar 型動詞・比較表現 Lección 10 La compré ayer. ・過去時制 I 点過去	視聴覚教材 小テスト 学期末テスト	1 0	
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト				
三 学 期	1	3 学期 学年末 考 査	Lección 11 Cuando era niña... ・過去時制 II 線過去	プリント（過去問題） 単語	6	
	2		・点過去と線過去の使い分け	視聴覚教材 学年末テスト	8	
					計 7 8 (2 単位)	
評 価			授業内で実施する小テストの点数、学期末に実施するまとめテスト（筆記・口頭）、平常点（提出物・関心・意欲・態度）を評価の対象とし、総合的に判断する。 達成度により、5段階の評定を行う。			

教科名 第2外国語科
科目名 スペイン語（初級）
対象 4 学年自由選択

I 学習到達目標

- 1 スペイン語の基礎を学習し、挨拶や、身近な事柄についての簡単な会話のやり取りができるようにする
- 2 直説法現在までの文法を習得する。
- 3 スペインを中心に、スペイン語を話す国々について幅広く知る。
- 4 スペイン語技能検定6級の取得を目指す。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 自由選択授業
- 2 教科書を中心に文法の基礎を固める。

III 教科書・補助教材

教科書 「IDEAL（改訂新版）」宇野和美 平井素子 Paula Letelier 著 同学社
適宜プリント（スペイン語技能検定・DELE 過去問題及び対策問題 他）
視聴覚教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題					
	4	1 学期 中 間 考 査	Introducción ¡Hola! ・アルファベット・発音・アクセントのルール ・挨拶 Lección 1 ¿De dónde eres? ・主語代名詞・動詞ser①・名詞	プリント 単語 視聴覚教材 小テスト	4	
	5				8	
	6	1 学期 期 末 考 査	Lección 2 Hola, ¿cómo estás? ・形容詞・動詞estar①・動詞ser② Lección 3 ¿Hay una farmacia? ・冠詞・存在を表すhay・動詞estar②	プリント 単語 視聴覚教材 小テスト 学期末テスト	8	
	7				4	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト				
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	Lección 4 Tomo un zumo de naranja. ・規則動詞・目的語につく前置詞 a	プリント 単語 視聴覚教材 小テスト	1 0	
	1 0				1 0	
	1 1	2 学期 期 末 考 査	Lección 5 ¿Conoces a Aya? ・間接目的語・直接目的語の人称代名詞 ・不規則動詞 I	プリント 単語 視聴覚教材 小テスト 学期末テスト	1 0	
	1 2				1 0	
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト				
三 学 期	1	3 学期 学年末 考 査	Lección 6 Vamos a Disneylandia. ・不規則動詞 II・動詞tener, irを使った表現 ・所有形容詞	プリント 単語 視聴覚教材 小テスト 学年末テスト	6	
	2				8	
					計 7 8 (2 単位)	
評 価	授業内で実施する小テストの点数、学期末に実施するまとめテスト（筆記・口頭）、平常点（提出物・関心・意欲・態度）を評価の対象とし、総合的に判断する。 達成度により、5段階の評定を行う。					

教科名 第2外国語科
科目名 スペイン語（中級）
対象 5学年自由選択

I 学習到達目標

- 1 これまでに学んだスペイン語を更に発展させて学習し、より実用的なスペイン語を習得する。
- 2 直説法の文法を習得する。
- 3 スペインを中心に、スペイン語を話す国々について幅広く知る。
- 4 スペイン語技能検定5級・DELE A1の取得を目指す。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 自由選択授業
- 2 実践的な問題演習を通して、これまでに学んだ文法知識の定着を図る。

III 教科書・補助教材

教科書 「スペイン語検定対策 5級・6級 問題集」青砥 清一 著 白水社
適宜プリント（スペイン語技能検定・DELE 過去問題及び対策問題 他）
視聴覚教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題					
	4	1 学期 中 間 考 査	第 1 章 文法問題 (p.6～14)	プリント 視聴覚教材 単語テスト	4	
	5		第 2 章 西文和訳 (p.57～61)		8	
			第 3 章 Q&A問題 (p.69～70)			
	6	1 学期 期 末 考 査	第 1 章 文法問題 (p.15～21)	プリント 視聴覚教材 単語テスト 学期末テスト	8	
	第 4 章 聞き取り問題 (p.73～74)					
7	第 5 章 語彙問題 (p.77～83)		4			
		第 6 章 西作文問題 (p.90～91)				
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト				
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	第 1 章 文法問題 (p.22～29)	プリント 視聴覚教材 単語テスト	1 0	
	1 0		第 2 章 西文和訳 (p.62～68)		1 0	
			第 3 章 Q&A問題 (p.71～72)			
	1 1	2 学期 期 末 考 査	第 1 章 文法問題 (p.30～38)	プリント 視聴覚教材 単語テスト 学期末テスト	1 0	
			第 4 章 聞き取り問題 (p.75～76)			
1 2	第 5 章 語彙問題 (p.84～89)		1 0			
		第 6 章 西作文問題 (p.92～94)				
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト				
三 学 期	1	3 学期 学年末 考 査	第 1 章 文法問題 (p.39～56)	プリント 視聴覚教材 単語テスト 学年末テスト	6	
	2				8	
					計 7 8 (2 単位)	
評 価	授業内で実施する単語テストの点数、学期末に実施するまとめテスト、平常点（提出物・関心・意欲・態度）を評価の対象とし、総合的に判断する。 達成度により、5段階の評定を行う。					

第2外国語科

I スペイン語の学習目標

- (1) 外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- (2) 外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- (3) 外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II スペイン語科の3年間の科目構成と学習内容

	「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
4年	・スペイン語の基礎を学習し、挨拶や、身近な事柄についての簡単な会話のやり取りができるようにする。 ・直説法までの文法を習得する。 ・スペインを中心に、スペイン語を話す国々について幅広く知る。 ・スペイン語技能検定6級の取得を目指す。	・語彙力の強化 ・直説法までの文法の問題演習 ・習得した文法や語彙を使つての文の作成 ・シャドウイングによる発音練習 ・暗唱 ・読解 ・スペイン語技能検定6級の過去問題の問題演習
5年	・4年生で学んだスペイン語を更に発展させて学習し、より応用的なスペイン語を習得するとともに、自分の意見を表現できるようにする。 ・スペイン語技能検定5級の取得を目指す。 ・DELE A1の取得を目指す。	・やさしいニュースを聞くなど、聴解力強化 ・文法力の強化 ・語彙力の強化 ・副教材の読解・発音練習 ・作文やスピーチ作成など表現力を強化する活動 ・シャドウイングによる発音練習 ・スペイン語技能検定5級およびDELE A1の過去問題の演習
6年	大学入試（私大入試）で扱われているスペイン語に対応できるだけの総合的な能力を身につける。 大学入試問題（採用している大学のみ）などの演習を実施する。 【長文読解】 【様々なテーマについて内容豊かに書く】 【スピーチ・プレゼンテーション】など。 ・スペイン語技能検定4級の取得を目指す。 ・DELE A2の取得を目指す。	・文法、語法、構文の演習 ・語彙力の更なる強化 ・語彙力の向上 ・リスニングテスト ・各自、志望校の過去問題を中心とした問題演習 ・スペイン語技能検定4級およびDELE A2の過去問題の演習

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 第2外国語科
科目名 スペイン語（初中級）
対象 4 学年自由選択

I 学習到達目標

- 1 中学で学んだスペイン語を更に発展させて学習し、より実用的なスペイン語を習得する。
- 2 自ら考え、表現する態度と能力を身につける。
- 3 スペイン語技能検定6級の取得を目指す。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 自由選択授業
- 2 教科書を中心に文法の基礎を固める。
- 3 定期的に検定試験の過去問題を取り扱い、実践的な力を身につける。

III 教科書・補助教材

教科書 「IDEAL（改訂新版）」宇野和美 平井素子 Paula Letelier 著 同学社
副教材 「スペイン語の入門」 瓜谷良平 著 白水社
適宜プリント（スペイン語技能検定・DELE 過去問題及び対策問題 他）
視聴覚教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題					
	4	1 学期 中 間 考 査	Lección 1 ¿De dónde eres? ・主語代名詞・動詞ser①・名詞	プリント 単語	4	
	5		Lección 2 Hola, ¿cómo estás? ・形容詞・動詞estar①・動詞ser②	視聴覚教材 小テスト	8	
			Lección 3 ¿Hay una farmacia? ・冠詞・存在を表すhay・動詞estar②・数詞			
	6	1 学期 期 末 考 査	Lección 4 Tomo un zumo de naranja. ・規則動詞・目的語につく前置詞 a・時刻表現	プリント 単語	8	
	7		Lección 5 ¿Conoces a Aya? ・間接目的語・直接目的語の人称代名詞 ・不規則動詞 I	視聴覚教材 小テスト 学期末テスト	4	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト				
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	Lección 6 Vamos a Disneylandia. ・不規則動詞 II・動詞tener, irを使った表現	プリント 単語	1 0	
	1 0		・所有形容詞・天候の表現 Lección 7 Quiero hacer deporte. ・不規則動詞 III・不定詞と目的語人称代名詞 ・指示形容詞	視聴覚教材 小テスト	1 0	
	1 1	2 学期 期 末 考 査	Lección 8 Aquí nos lavamos las manos. ・再帰代名詞を伴う動詞・不定詞と再帰代名詞	プリント 単語	1 0	
	1 2		Lección 9 Me gusta la naturaleza. ・gustar 型動詞・比較表現 Lección 10 La compré ayer. ・過去時制 I 点過去	視聴覚教材 小テスト 学期末テスト	1 0	
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト				
三 学 期	1	3 学期 学年末 考 査	Lección 11 Cuando era niña... ・過去時制 II 線過去	プリント（過去問題） 単語	6	
	2		・点過去と線過去の使い分け	視聴覚教材 学年末テスト	8	
					計 7 8 (2 単位)	
評 価			授業内で実施する小テストの点数、学期末に実施するまとめテスト（筆記・口頭）、平常点（提出物・関心・意欲・態度）を評価の対象とし、総合的に判断する。 達成度により、5段階の評定を行う。			

教科名 第2外国語科
科目名 スペイン語（初級）
対象 4 学年自由選択

I 学習到達目標

- 1 スペイン語の基礎を学習し、挨拶や、身近な事柄についての簡単な会話のやり取りができるようにする
- 2 直説法現在までの文法を習得する。
- 3 スペインを中心に、スペイン語を話す国々について幅広く知る。
- 4 スペイン語技能検定6級の取得を目指す。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 自由選択授業
- 2 教科書を中心に文法の基礎を固める。

III 教科書・補助教材

教科書 「IDEAL（改訂新版）」宇野和美 平井素子 Paula Letelier 著 同学社
適宜プリント（スペイン語技能検定・DELE 過去問題及び対策問題 他）
視聴覚教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題					
	4	1 学期 中 間 考 査	Introducción ¡Hola! ・アルファベット・発音・アクセントのルール ・挨拶 Lección 1 ¿De dónde eres? ・主語代名詞・動詞ser①・名詞	プリント 単語 視聴覚教材 小テスト	4	
	5				8	
	6	1 学期 期 末 考 査	Lección 2 Hola, ¿cómo estás? ・形容詞・動詞estar①・動詞ser② Lección 3 ¿Hay una farmacia? ・冠詞・存在を表すhay・動詞estar②	プリント 単語 視聴覚教材 小テスト 学期末テスト	8	
	7				4	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト				
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	Lección 4 Tomo un zumo de naranja. ・規則動詞・目的語につく前置詞 a	プリント 単語 視聴覚教材 小テスト	1 0	
	1 0				1 0	
	1 1	2 学期 期 末 考 査	Lección 5 ¿Conoces a Aya? ・間接目的語・直接目的語の人称代名詞 ・不規則動詞 I	プリント 単語 視聴覚教材 小テスト 学期末テスト	1 0	
	1 2				1 0	
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト				
三 学 期	1	3 学期 学年末 考 査	Lección 6 Vamos a Disneylandia. ・不規則動詞 II・動詞tener, irを使った表現 ・所有形容詞	プリント 単語 視聴覚教材 小テスト 学年末テスト	6	
	2				8	
					計 7 8 (2 単位)	
評 価	授業内で実施する小テストの点数、学期末に実施するまとめテスト（筆記・口頭）、平常点（提出物・関心・意欲・態度）を評価の対象とし、総合的に判断する。 達成度により、5段階の評定を行う。					

教科名 第2外国語科
科目名 スペイン語（中級）
対象 5学年自由選択

I 学習到達目標

- 1 これまでに学んだスペイン語を更に発展させて学習し、より実用的なスペイン語を習得する。
- 2 直説法の文法を習得する。
- 3 スペインを中心に、スペイン語を話す国々について幅広く知る。
- 4 スペイン語技能検定5級・DELE A1の取得を目指す。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 自由選択授業
- 2 実践的な問題演習を通して、これまでに学んだ文法知識の定着を図る。

III 教科書・補助教材

教科書 「スペイン語検定対策 5級・6級 問題集」青砥 清一 著 白水社
適宜プリント（スペイン語技能検定・DELE 過去問題及び対策問題 他）
視聴覚教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題					
	4	1 学期 中 間 考 査	第 1 章 文法問題 (p.6～14)	プリント 視聴覚教材 単語テスト	4	
	5		第 2 章 西文和訳 (p.57～61)		8	
			第 3 章 Q&A問題 (p.69～70)			
	6	1 学期 期 末 考 査	第 1 章 文法問題 (p.15～21)	プリント 視聴覚教材 単語テスト 学期末テスト	8	
	第 4 章 聞き取り問題 (p.73～74)					
7	第 5 章 語彙問題 (p.77～83)		4			
		第 6 章 西作文問題 (p.90～91)				
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト				
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	第 1 章 文法問題 (p.22～29)	プリント 視聴覚教材 単語テスト	1 0	
	1 0		第 2 章 西文和訳 (p.62～68)		1 0	
			第 3 章 Q&A問題 (p.71～72)			
	1 1	2 学期 期 末 考 査	第 1 章 文法問題 (p.30～38)	プリント 視聴覚教材 単語テスト 学期末テスト	1 0	
			第 4 章 聞き取り問題 (p.75～76)			
1 2	第 5 章 語彙問題 (p.84～89)		1 0			
		第 6 章 西作文問題 (p.92～94)				
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト				
三 学 期	1	3 学期 学年末 考 査	第 1 章 文法問題 (p.39～56)	プリント 視聴覚教材 単語テスト 学年末テスト	6	
	2				8	
					計 7 8 (2 単位)	
評 価	授業内で実施する単語テストの点数、学期末に実施するまとめテスト、平常点（提出物・関心・意欲・態度）を評価の対象とし、総合的に判断する。 達成度により、5段階の評定を行う。					

第2外国語科

I フランス語の学習目標

- （1）外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- （2）外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- （3）外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II フランス語の3年間の科目構成と学習内容

	「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
4年	・ 日常会話をできるようにする ・ フランス語の全体像を把握する ・ フランスの文化について学習し、他との共通点や違いを理解して考える力をつける	・ 文法、語彙、聴解力、読解力を強化する活動 ・ 口頭発表 ・ 仏検の演習（希望者は仏検受験）
5年	・ 旅行や留学で使える会話表現を増やす ・ 学習した文法事項を活用して、読解や仏作文ができる ・ フランスの文化、歴史、現代事情について学習し、自ら考え表現する能力と態度を身につける	・ 文法、語彙、聴解力、読解力を強化する活動 ・ 口頭発表 ・ 翻訳 ・ 仏作文、日記、手紙、メール ・ 仏検の演習（希望者は仏検受験）
6年	・ 大学入試に対応できる能力を身につける	・ 大学入試問題の演習など

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

科目名 フランス語
対象 4学年選択（初級クラス）

I 學習到達目標

- | | |
|---|--|
| 1 | フランス語の基本的な表現を学習し、それを使って日常会話をできるようにする。 |
| 2 | フランス語の基本的な文法事項を学習し、フランス語の全体像を把握する。 |
| 3 | フランスの基本情報、フランス語の歴史、フランス語圏に関する知識を深めるとともに、フランスの文化について学習し、他との違いや共通点を理解して考える力をつける。 |

Ⅱ 授業の進め方（授業形態等）

- 1 高校入学生、及び言語変更を希望する中学入学生を対象とする。
2 教科書を活用して基礎を固めると共に、補助教材も導入して発展的な学習を行う。
3 定期的にテストや発表を行い、基礎文法事項や簡単な会話表現の定着を図る。

III 教科書・補助教材

教科書 『プティ・シュマン 改訂版 (Petit chemin, nouvelle édition) 』 (大塚陽子著、白水社、2017年)
補助教材 プリント教材など

IV 學習計畫

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
			「教科書」の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題		なし	なし	
	4		Introduction：アルファベ、出会いの挨拶など pp.6-7	・フランスの基本情報 ・フランス語の歴史	8
	5		Leçon 1：注文・依頼する、0～10 など pp.10-13 Leçon 2：誰・何・いくらなのか尋ねる/言う、11 ～20 など pp.14-17 Leçon 3：職業や身分を尋ねる/言う、21～30 など pp.18-21	・フランス語圏 ・各課の文法事項	8
	6 7	1 学期 期 末 考 査	Leçon 4：好き嫌いを尋ねる/言う、どこ・いくつな のか尋ねる/言う、31～69など pp.22-25 補足：つづり字と発音の関係 pp.8-9	・学期末試験 ・フランス文化	8 4
	夏休み 宿 題			単語コンクールの準備、仏検演習	
二 学 期	9		Leçon 5：avoir を使った表現、71～100 など pp.26-29	・単語コンクール ・各課の文法事項	8
	10		Leçon 6：行き先を尋ねる/言う、前置詞、101～ 9999 など pp.30-33 Leçon 7：いつなのか尋ねる/言う、月、曜日、日付 など pp.34-37		9
	11 12	2 学期 期 末 考 査	Leçon 8：意志を尋ねる/言う、天気など pp.38-41 補足：つづり字と発音の関係 pp.8-9	・学期末試験 ・フランス文化	9 4
	冬休み 宿 題			仏検演習	
三 学 期	1	3 学期	Leçon 9：時刻や年齢を尋ねる/言う、代名詞 on な ど pp.42-45	・各課の文法事項 ・学期末試験	8
	2	期 末 考 査	Leçon 10：方法や手段を尋ねる/言う、頻度や期間、 様々な否定など pp.46-49	・仏検演習	8
	3		補足：つづり字と発音の関係 pp.8-9		4
				計 78 (2単位)	
評 価	3つの観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を考慮して、以下の資料を用いて総合的に 評価を行う。 ・学期末試験（年に3回） ・単語コンクール（年に1回） ・授業への参加態度 ・発表 ・提出物 ・宿題				

第2外国語科

I フランス語の学習目標

- （1）外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- （2）外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- （3）外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II フランス語の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	開講せず	開講せず
	2年	・初歩的な会話をできるようにする ・フランス語のしくみを理解する ・フランス文化について学習し、他との共通点や違いを理解する	・ALT との学習 ・聞き取り練習 ・寸劇の作成と発表 ・演劇 ・文法の演習 ・フランスのゲーム、歌、アニメ
	3年	・日常会話をできるようにする ・フランス語の全体像を把握する ・フランス文化について学習し、他との共通点や違いを理解して考える力をつける	・ALT との学習 ・聞き取り練習 ・寸劇の作成と発表 ・翻訳 ・文法や仏検の演習（希望者は仏検受験） ・フランスのゲーム、歌、映画
高校段階	4年	・旅行や留学で使える会話表現を増やす ・読解や仏作文に慣れる ・フランスの文化について学習し、自ら考え表現する能力と態度を身につける	・文法、語彙、聴解力、読解力を強化する活動 ・口頭発表 ・翻訳 ・仏作文 ・仏検の演習（希望者は仏検受験）
	5年	・旅行や留学で使える会話表現をさらに増やす ・学習した文法事項を活用して、読解や仏作文ができる ・フランスの文化、歴史、現代事情について学習し、自ら考え表現する能力と態度を身につける	・文法、語彙、聴解力、読解力を強化する活動 ・口頭発表 ・翻訳 ・仏作文、日記、手紙、メール ・仏検の演習（希望者は仏検受験）
	6年	・大学入試に対応できる能力を身につける	・大学入試問題の演習など

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

科目名 フランス語
対象 4学年選択（初中級クラス）

I 学習到達目標

- 1 フランス語の基本的な表現をさらに発展させて学習し、旅行や留学で使える会話表現を増やす。
- 2 フランス語の基本的な文法事項をさらに発展させて学習し、読解や仏作文に慣れる。
- 3 フランスの文化について学習し、それについて自ら考えて表現する能力と態度を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 中学より継続してフランス語を学ぶ中学入学生を対象とする。
- 2 教科書を活用して基礎を固めると共に、補助教材も導入して発展的な学習を行う。
- 3 定期的にテストや発表を行い、基礎文法事項や様々な会話表現の定着を図る。

III 教科書・補助教材

教科書 『プチ・シュマン 改訂版 (Petit chemin, nouvelle édition)』（大塚陽子著、白水社、2017年）

補助教材 プリント教材など

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
			「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題		なし	なし		
	4		Introduction：つづり字記号、出会いの挨拶など pp.6-7	・翻訳 ・各課の文法事項や仏作文	8	
	5		Leçon 1：注文・依頼する、0～10 など pp.10-13 Leçon 2：誰・何・いくらなのか尋ねる/言う、11～20 など pp.14-17 Leçon 3：職業や身分を尋ねる/言う、21～30 など pp.18-21		8	
	6	1 学期	Leçon 4：好き嫌いを尋ねる/言う、どこ・いくつな のか尋ねる/言う、31～69など pp.22-25	・学期末試験 ・フランス文化	8	
	7	期 末 考 査	補足：つづり字と発音の関係 pp.8-9		4	
	夏休み 宿 題			単語コンクールの準備、仏検演習		
二 学 期	9		Leçon 5：avoir を使った表現、71～100 など pp.26-29	・単語コンクール ・各課の文法事項や仏作文	8	
	1 0		Leçon 6：行き先を尋ねる/言う、前置詞、101～ 9999 など pp.30-33 Leçon 7：いつなのか尋ねる/言う、月、曜日、日付 など pp.34-37		9	
	1 1	2 学期	Leçon 8：意志を尋ねる/言う、天気など pp.38-41	・学期末試験 ・フランス文化	9	
	1 2	期 末 考 査	補足：つづり字と発音の関係 pp.8-9		4	
	冬休み 宿 題			仏検演習		
三 学 期	1	3 学期	Leçon 9：時刻や年齢を尋ねる/言う、代名詞 on な ど pp.42-45	・各課の文法事項や仏作文 ・学期末試験 ・仏検演習 ・翻訳	8	
	2	期 末 考 査	Leçon 10：方法や手段を尋ねる/言う、頻度や期間、 様々な否定など pp.46-49		8	
	3		補足：つづり字と発音の関係 pp.8-9		4	
					計 78 (2単位)	
評 価		3つの観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を考慮して、以下の資料を用いて総合的に評価を行う。 ・学期末試験（年に3回） ・単語コンクール（年に1回） ・授業への参加態度 ・発表 ・提出物 ・宿題				

第2外国語科

I 中国語の学習目標

- (1) 中国語の学習を通じて、中国語とその中国語が使われている文化背景について学ぶ。
- (2) 中国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- (3) 中国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II 中国語の3年間の科目構成と学習内容

	「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
1年	・中学で学んだ中国語をさらに発展させて学習し、日常会話等から実際に使うことができる中国語をできるようにする。 ・中国の歴史と現代の中国、中国文化の特徴を学び、その知識をさらに深める。さらに自ら考え表現する能力と態度を身につける。	・プレゼンテーションを中心とした発展的活動 ・文法、語彙、表現力を強化する活動 ・副読本を読む ・聴解力強化 ・スピーチ、ダイアログを行う
2年	・中学で学んだ中国語をさらに発展させて学習し、日常会話等から実際に使うことができる中国語をできるようにする。そこから自分の意見を表現できるようにする。 ・中国の歴史と現代の中国、中国文化の特徴を学び、その知識をさらに深める。さらに自ら考え表現する能力と態度を身につける。	・プレゼンテーションを行う ・やさしいニュースを聞く ・文法、語彙、表現力を強化する活動 ・副読本を読む ・聴解力強化 ・スピーチ、ダイアログを行う
3年	大学入試（共通テスト・私大入試）で扱われている中国語科目に対応できるだけの能力をつける。 大学入試問題（採用している大学のみ）などの演習を実施 【長文理解に加えて、背景を学ぶ】 【いろいろなテーマについて内容豊かに描く】 【話し合ったり、討論したりする】	・文法、語法、構文の演習 ・語彙増強 ・読解力の向上 ・リスニングテストで聞き取り練習 ・各自の必要に応じた力の伸長 ・プレゼンテーションを行う

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 第2外国語
科目名 中国語（初中級）
対象 高校1年生

I 学習到達目標

- 1 中国語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- 2 中国語の基本的な表現を学習し、それを使って言いたいことを相手に伝えたり、相手の意見を聞いたりする能力を身につける。
- 3 中国語が使われている国の人々や生活について学習し、日本との違いや共通点を理解する。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 副教材を活用し基礎を固めるとともに発展的な学習を行う。
- 2 定期的な単語テストや小テストを行い、基礎文法の定着をはかる。
- 3 暗唱テストや口頭発表を行い、発音、聴解力の定着をはかる。

III 教科書・補助教材

教科書 「対話・短文で学ぶアップデート中国語」 駿河台出版社

補助教材 プリント教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題	予定なし			
	4	1 学期 中 間 考 査	中国、中国語とは 声調（四声）、拼音（母音と子音） 名前の言い方 数詞と時点、時間量の表現 自己紹介 P6~P27	プリント ・初歩の中国語を使い簡単な会話 表現を学ぶ。 ・母音、子音表 暗唱テスト	8	
	5				8	
	6	1 学期 期 末 考 査	動詞「是」の肯定文、否定文、疑問文 動詞述語文 疑問詞「谁」、「什么」、「哪个」 助動詞「想」、「要」 P28~P41	プリント 暗唱テスト	8	
	7			単語、文法テスト	4	
	夏休み 宿 題	宿 題	単語			
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	疑問詞「哪儿」、「什么时候」 助動詞「应该」、「得」、「会」、「能」、「可以」 介詞「在」、「跟」、「給」 形容詞述語文 P42~P54	プリント 暗唱テスト	8	
	10				9	
	11	2 学期 期 末 考 査	介詞「从」、「到」、「离」 連動文 動詞「有」、「在」 疑問詞「几」、「多少」、「怎么」 P56~P68	プリント 暗唱テスト	9	
	12			単語、文法テスト	4	
	冬休み 宿 題	宿 題	単語			
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	文末の「了」と動詞の後の「了」 経験を表す「过」 持続を表す「着」 進行形「正在」 P70~P82	プリント 暗唱テスト	8	
	2			単語、文法テスト	8	
	3				4	
					計 7 8 (2単位)	
評 価	以下の点から総合して評価する。 ・毎学期の定期考査により、知識・理解度をみる。 ・中国語の発表活動を通し、表現の能力をみる。 ・小テストや課題提出等を通して、学習意欲をみる。 ・小テストや定期考査などで、中国語や文化についての知識・理解をはかる。 ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三観点から評価する。					

教科名 第2外国語
科目名 中国語（初級）
対象 高校1年生

I 学習到達目標

- 1 中国語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- 2 中国語の基本的な表現を学習し、それを使って言いたいことを相手に伝えたり、相手の意見を聞いたりする能力を身につける。
- 3 中国語が使われている国の人々や生活について学習し、日本との違いや共通点を理解する。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 副教材を活用し基礎を固めるとともに発展的な学習を行う。
- 2 定期的な単語テストや小テストを行い、基礎文法の定着をはかる。
- 3 暗唱テストや口頭発表を行い、発音、聴解力の定着をはかる。

III 教科書・補助教材

教科書 「対話・短文で学ぶアップデート中国語」 駿河台出版社

補助教材 プリント教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題	予定なし			
	4	1 学期 中 間 考 査	中国、中国語とは 声調（四声）、拼音（母音と子音） 名前の言い方 数詞と時点、時間量の表現 P6~P25	プリント ・初歩の中国語を使い簡単な会話 表現を学ぶ。 ・母音、子音表 暗唱テスト	8	
	5				8	
	6			プリント 暗唱テスト	8	
	7	1 学期 期 末 考 査	自己紹介 動詞「是」の肯定文、否定文、疑問文 動詞述語文 疑問詞「谁」、「什么」、「哪个」 助動詞「想」、「要」 P26~P41	単語、文法テスト	4	
	夏休み 宿 題	宿 題	単語			
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	疑問詞「哪儿」、「什么时候」 助動詞「应该」、「得」、「会」、「能」、「可以」 介詞「在」、「跟」、「給」 形容詞述語文 P42~P54	プリント 暗唱テスト	8	
	10				9	
	11	2 学期 期 末 考 査	介詞「从」、「到」、「离」 連動文 動詞「有」、「在」 疑問詞「几」、「多少」、「怎么」 P56~P68	プリント 暗唱テスト 単語、文法テスト	9	
	12				4	
	冬休み 宿 題	宿 題	単語			
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	文末の「了」と動詞の後の「了」 経験を表す「过」 持続を表す「着」 進行形「正在」 P70~P82	プリント 暗唱テスト 単語、文法テスト	8	
	2				8	
	3				4	
					計 7 8 (2単位)	
評 価	以下の点から総合して評価する。 ・毎学期の定期考査により、知識・理解度をみる。 ・中国語の発表活動を通し、表現の能力をみる。 ・小テストや課題提出等を通して、学習意欲をみる。 ・小テストや定期考査などで、中国語や文化についての知識・理解をはかる。 ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三観点から評価する。					

教科名 第2外国語
科目名 中国語（中級）
対象 高校2年生

I 学習到達目標

- 1 中国語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- 2 中国語の基本的な表現を学習し、それを使って言いたいことを相手に伝えたり、相手の意見を聞いたりする能力を身につける。
- 3 中国語が使われている国の人々や生活について学習し、日本との違いや共通点を理解する。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 副教材を活用し基礎を固めるとともに発展的な学習を行う。
- 2 定期的な単語テストや小テストを行い、基礎文法の定着をはかる。
- 3 暗唱テストや口頭発表を行い、発音、聴解力の定着をはかる。

III 教科書・補助教材

教科書 「対話・短文で学ぶアップデート中国語」 駿河台出版社
補助教材 プリント教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題	予定なし			
	4	1 学期 中 間 考 査	主述述語文 選択を表す接続詞 “还是” 動詞の重ね型 比較の表現 “比” P84~P91	プリント 暗唱テスト 単語、文法テスト	8 8	
	5					
	6					
	7	1 学期 期 末 考 査	二重目的語 受け身を表す表現 “被” 使役を表す “让” “叫” 「まもなく～だ」 “是～的” 構文 P92~P99	プリント 暗唱テスト 単語、文法テスト	8 4	
	夏休み 宿 題	宿 題	長文読解 P100			
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	教科書の中国語文法総復習 P28~P73 新HSK4級対策 プリント	プリント 暗唱テスト 単語、文法テスト	8 9	
	10					
	11	2 学期 期 末 考 査	教科書の中国語文法総復習 P73~P99 新HSK4級対策 プリント	プリント 暗唱テスト 単語、文法テスト	9 4	
	冬休み 宿 題	宿 題	新HSK4級対策 プリント			
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	新HSK4級対策 プリント	プリント 暗唱テスト 単語、文法テスト	8 8 4	
					計 78 (2単位)	
評 価	以下の点から総合して評価する。 ・毎学期の定期考査により、知識・理解度をみる。 ・中国語の発表活動を通し、表現の能力をみる。 ・小テストや課題提出等を通して、学習意欲をみる。 ・小テストや定期考査などで、中国語や文化についての知識・理解をはかる。 ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三観点から評価する。					

総合的な探究の時間

I 総合的な探究の時間の学習目標

- （1）主体的に課題を発見し、解決することができる力を身につける
- （2）事象を様々な角度からとらえ分析できる力を身につける
- （3）多様な価値観を尊重して協働できる力を身につける
- （4）斬新かつ柔軟な発想力を身につける

II 総合的な探究の時間の3年間の科目構成と学習内容

	「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
1年	「総合的な探究の時間（人間と社会）」 ・浅草上野フィールドワーク ・行事別発表 ・ブックレポート ・リサーチクエストと仮説の設定	・浅草上野地域の地域行事の歴史的背景や現状を学ぶ ・グループごとに地域行事の課題を発見する ・調査に必要な手法を学ぶ ・地域行事のあり方について地域の方々に提言をする ・5年次の探究論文のテーマについて知見を深めるために、関連書籍を読む ・5年次の探究論文執筆に向けて、リサーチクエストと仮説を立てる
2年	「総合的な探究の時間」 ・探究論文執筆 ・探究論文発表	・4年次に各自設定したテーマで、本校教員をアドバイザーとして探究論文の執筆に取り組む。 ・論文の構成を学ぶ。 ・論文完成後、発表会を行う
3年		

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 総合的な探究の時間（人間と社会）
科目名 総合的な探究の時間（人間と社会）
対象 4 学年全員

I 学習到達目標

- 1 横断的・総合的な活動を通じて「課題設定力」、「文献調査力」、「データ分析力」の3つを重点的に育む。
- 2 5年次における個別テーマによる課題探究活動がスタートできるように、学年末までに、5年次の個別課題探究活動における適切なリサーチクエッション（研究テーマ）を設定する。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 横断的・総合的な探究学習を通して自ら課題を見つけ、自ら学び、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身につけ、問題解決や探究活動に主体的、創造的、共同的に取り組む態度を育て自己の生き方を考える。
- 2 前半は地域の伝統行事を題材にグループ単位で課題探究活動を行うことで課題探究活動における基礎技術をかため、後半は個々のリサーチクエッションを設定するために、個別での課題探究活動を行う。個々にリサーチクエッションを設定する。

III 教科書・補助教材

教科書 なし
補助教材 岡本尚也「課題探究メソッドStart Book」啓林館、2019年

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み宿 題	なし			0	
	4	なし	オリエンテーション フィールドワーク	・浅草上野の地域行事の探究活動の意義・進め方 ・探究学習のテーマを伝える ・浅草上野地区でフィールドワークを実施する	(3) 3	() は まとめ取 りの時数 を含む
	5			・浅草上野地区における地域行事の歴史的背景や現状 についてのお話を伺って、グループ別に課題を設定する		
	6	なし	地域行事について調べ学習とフ ィールドワーク	・調査に必要な手法を学ぶ ・課題研究の題材を決める ・フィールドワーク（インタビュー等を含む）の実施	(5) 3	
	夏休み宿 題	なし			0	
二 学 期	9	なし	発表準備	・白鷗祭での展示 ・研究計画を作成	(4) (4)	
	10		行事別発表 優秀班発表	・ポスター、またはパワーポイントで発表 ・各行事関係者からのフィードバック		
	11	なし	個別探究学習ガイダンス	・5年次の探究論文、6年次の英語論文について	4	
	12		ブックレポート ブックレポート発表会	・NDC分類表とNDC分類表に沿った項目から関心のある ものを確認させ、新書を選ぶ ・類似する分野で発表することにより、多様な視点を 取り入れる ・同じ分野を探究する生徒同士で情報交換する	2	
	冬休み宿 題	なし			0	
三 学 期	1	なし	探究活動の手法を学ぶ	・研究計画書の書き方ガイダンス	2	
	2		リサーチクエスチョンと仮説の 設定と発表	・各自設定したリサーチクエスチョンへのフィードバ ック	2	
	3				3	
					計 35 (1単位)	
評 価	・年間を通して課題研究へ主体的に取り組んでいるか ・出席状況や成果物の状況や学習に対する意欲や態度は良好か ・思考力、判断力、表現力などに加えて、生徒の自己評価や相互評価はどうか 以上の点を総合的に評価する					